

文部科学省委託事業  
「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」

# AG5補習校チーム 活動成果報告

2022年3月

公益財団法人 海外子女教育振興財団

## はじめに

AG5では2017年度から「補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発」を進めてきました。ダラス補習授業校を中心にしてスタートしたこのプロジェクトには、全米のみならず世界各地の補習授業校の関係者にご参加いただいています。

このプロジェクトでは、大きく4つの取り組みを進めてきました。第1は、「授業づくり」の取り組みです。「日本語の力がちがっていても一緒に力を伸ばす授業」を共通のテーマとして、「学習活動計画」を作成し、その計画についての検討会、さらに研究授業を実施した後で「授業検討会」を公開で行いました。第2は、着任して原則3年以内の新任の先生を対象とした「初任者研修会」です。第3は、補習授業校の身近な話題をテーマに、オンラインで気軽に話し合う「情報交換会」です。この活動から、世界の補習授業校の先生方をつなぐ「補習校ネット」ができました。現在、登録者数257名、所属校は93校（アジア6校、大洋州2校、欧州39校、アフリカ1校、北米41校、中南米4校）に上っています。そして第4は、「合同研究会」で、2019年度より年1回、活動のまとめとして実施してきました。

今回、こうした取り組みの成果を検証するために、各種の活動に参加した先生を対象に質問紙およびインタビュー調査を実施しました。本書はその結果を報告するものです。その中で、「AG5の活動が役立ったかどうか」について質問しましたが、「とてもそう思う」が51.6%、「ややそう思う」が32.7%と、約85%の人が「役立った」と回答され、AG5の取り組みに一定の評価をいただきました。また、この調査では、コロナ禍における補習授業校の対応や変化に関しても質問しました。自由記述には多くの回答を寄せいただきましたが、いずれの補習授業校でもコロナ禍での教育の苦労が非常に大きかったことを感じる結果となっています。こうした緊急事態にも対応することの必要性を痛感する結果でした。

AG5は5年間の取り組みを終えることとなりますが、この事業をいかに継承するかについてさまざまなご意見もいただきました。今後の新たな事業を構想する上で大いに参考になるものです。今後も補習授業校に対する支援を継続していきたいと考えています。ご多忙の中、調査にご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。

最後に、AG5の活動に参加いただいた関係者のみなさまにも深く感謝申し上げます。

AG5 運営指導委員長

佐藤 郡 衛

# 目 次

I . 調査の背景	1
1 / 調査の趣旨	1
2 / 補習校チームの活動について	2
II . 教師への質問紙調査にみる補習授業校の取り組みと AG5 の成果	5
1 / 質問紙調査の概要	5
2 / 回答者の属性について	5
3 / 質問紙調査の結果	11
3-1 AG5 との関わりとその成果について	11
3-2 コロナ禍による補習授業校への影響と変化	22
3-3 今後の活動への参加と教師自身の変化	32
3-4 自由記述	36
III . インタビュー調査による効果検証	47
1 / インタビュー調査の方法	47
2 / インタビュー調査の結果	48
2-1 初任者教師からみた AG5 の成果	48
2-1-1 初任者研修会	48
2-1-2 公開授業	50
2-2 中堅教師からみた AG5 の成果	51
2-2-1 A 補習授業校での研修会と公開授業	51
2-2-2 公開授業	52
2-2-3 初任者研修会	53
2-2-4 AG5 の課題	54
2-3 管理職からみた AG5 の成果	55
2-3-1 AG5 の効果	55
2-3-2 AG5 の継承	55
【稿末資料】 質問紙全文	57

# AG5補習校チーム 活動成果報告

補習授業校教師対象 質問紙およびインタビュー調査の結果より

## I. 調査の背景

### 1 / 調査の趣旨

AG5 補習校チームでは、2017 年以来「補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発」を主な目標に、以下の7名のメンバーで活動を推進してきた。

雨宮 真一：東京学芸大学附属国際中等教育学校副校長（英語教育、海外・帰国子女教育）

今澤 悌：甲府市立大國小学校教諭（日本語教育）

岡村 郁子：東京都立大学教授（日本語教育、異文化間教育）

近田由紀子：目白大学専任講師（帰国・外国人児童生徒等教育）

佐々 信行：海外子女教育振興財団教育相談員（海外・帰国子女教育）

渋谷 真樹：日本赤十字看護大学教授（異文化間教育、IB カリキュラム）

三井 知之：海外子女教育振興財団教育相談員（海外・帰国子女教育）

このたび AG5 最終年度にあたり、その活動の成果を検証するため、補習校チームが主催した各種の活動に参加した教師を対象に、質問紙およびインタビュー調査を実施した。調査は 2021 年 8 月～10 月に、上記メンバーのうち岡村・渋谷・近田の3名が担当し、結果について質的・量的に分析を行った。本稿はその報告書であり、質問紙調査の結果を岡村・インタビュー調査の結果を渋谷が担当する。質問紙調査においては単純集計の分析結果を示すとともに、調査協力者から寄せられた自由記述は個人が特定されない範囲で原則的にすべて掲載し、参加者の貴重な生の声を共有できるようにした。またインタビュー調査では、質問紙では収集しきれなかった AG5 の活動についての参加者の思いを、その語りにより明らかにする。なお本調査の倫理審査は、岡村の本務先である東京都立大学の研究倫理委員会にて行われ、2021 年 7 月に承認を受けている（承認番号 H3-103）。

本調査は AG5 の成果を検証・発信するものであるが、加えて今後 AG5 の後継となるプログラムの向上に資することを目指す。また、活動に参加した補習授業校教師の声を共有することで、各現場における問題意識を確認し、課題解決に向けて相互にアイデアを出し合うようなきっかけとなれば、なお幸いである。

## 2 / 補習校チームの活動について

報告に先立ち、協力者が参加した当チームの活動内容について、以下簡単に説明したい。

### (1) 学習活動計画作成

「日本語の力がちがっていても一緒に力を伸ばす授業」を共通のテーマとして、協力校の教師より授業実施者を募り、AG5 メンバーより助言を行いながら「学習活動計画」を作成した。その計画について公開で「計画検討会」を行った後に研究授業を実施、その録画をみて「授業検討会」を公開で行った。学習活動計画の中には「単元の目標」と「日本語の目標」を定め、さまざまなアイデアや効果的な授業技術を工夫して「主体的・対話的で深い学び」を目指した。この活動は2017年度に2回、2018年度・2019年度・2020年度にそれぞれ7回、2021年度には8回実施した。学年も教科も多岐にわたり、計画立案から振り返りまでの過程を多くの参加者と共有してきた。なお、これらの成果をふまえて、補習校チームより『みんなの日本語を伸ばす授業づくりアイデア31』を発刊した。

### (2) 初任者研修会

着任して原則3年以内の新任教師を対象とした研修会で、2020年度は5回、2021年度には6回のシリーズで実施した。例として、2021年度の日程とテーマを以下に示す。

#### 2021年度 .....

- 第1回 6月18日(金)「補習授業校における授業づくりの考え方」(AG5 三井知之)
- 第2回 7月21日(水)「授業スキルアップのコツ」(AG5 雨宮真一)
- 第3回 9月22日(水)「授業実践～教え方の工夫(模擬授業)」  
(AG5 コーディネーター ダラス補習授業校 佐藤恵美)
- 第4回 11月22日(月) グループディスカッション 1 (科目別)
- 第5回 1月21日(金)「すべての子どもたちの日本語力向上を目指して」  
(AG5 今澤悌、近田由紀子)
- 第6回 2月22日(火) グループディスカッション 2 (学年別)

研修参加者は初年度には約80名であったが、2年目には190名、所属校は78校(アジア5校、大洋州4校、欧州30校、北米37校、中南米2校)に上っている。

### (3) 情報交換会

補習授業校での身近な話題をテーマに、オンラインで気軽に話し合う場として2019年度終わりにスタートした情報交換会は、2022年1月現在までに36回の開催に至っている。テーマの例を挙げると、「どうする、運動会」「デジタル教科書と、使えるIT」「オンライン/ハイブリッド授業の知恵」「新しい学期の始まり」「教師をどう確保するか」「ここが楽しい!中学生の指導」「補習授業校の継承語/国際クラス」「オンライン授業下の学校行事」など、タイムリーな話題や、学校行事、担当学年独

自の関心に沿ったテーマを毎回取り上げ、興味のある人が参加して、活発な意見交換を行ってきた。今では、この会から自主グループも誕生し、独自の活動も展開されている。この活動から、世界の補習授業校の教師をつなぐネットワークとして「補習校ネット」ができ、登録者数 257 名、所属校は 93 校（アジア 6 校、大洋州 2 校、欧州 39 校、アフリカ 1 校、北米 41 校、中南米 4 校）に上っている。

#### (4) 合同研究会

2019 年度より年 1 回、活動のまとめとして合同研究会を実施してきた。2019 年度～2021 年度の概要は以下のとおりである。

##### 2019 年度

< 日時 > 2019 年 8 月 12 日（月）ダラス時間 9:00～16:00  
（日本時間 23:00～6:00 ドイツ時間 16:00～23:00）

< 場所 > ①ダラス会場：ダラス補習授業校借用校舎  
② Zoom 会議システム会場（ダラス会場より同時中継）

< テーマ > 多様な児童生徒と一緒に楽しく日本語を学ぶ授業づくり  
～補習校のネットワークを力に～

< プログラム >

(1) 講演①「海外で学ぶ子どもたちは、今 ～補習授業校大規模調査の分析から～」  
（AG5 岡村郁子）

講演②「補習授業校における総合学習型日本語プログラムの開発」  
（AG5 近田由紀子）

(2) ダラスでの授業実践報告－「楽しく日本語を学ばせる工夫」  
（報告）佐藤恵美、バーバー悦子、長本玲子（ダラス補習授業校）

(3) すぐに役立つ授業技術ワークショップ  
A：ジグソー法を用いた学習活動  
B：創作アフレコを用いた学習活動  
C：なだもた作文やリレー作文の形式を用いた作文指導

(4) グループ懇談 情報・意見交換（小学校低学年部会、小学校高学年部会、中学校部会）  
グループ懇談報告

##### 2020 年度

< 日時 > 2021 年 2 月 7 日（日）日本時間 23:00～24:00

< 場所 > Zoom によるオンライン開催

< テーマ > 日本語の力が異なる子どもたちがともに力を伸ばしていく授業づくり

< プログラム >

(1) 講演「アジアの補習授業校から」（香港補習授業校 明石智子、今寿美子）

(2) 報告「日本語の力が異なる子どもたちをともにのばす授業」（録画）  
今年度作成した 7 つの学習活動計画について、授業者と補習校チームメンバーの対談の録画を視聴

- ① 小1、2、3 国語・生活「馬のおもちの作り方」(ダラス 長本玲子×佐々信行)
  - ② 小3 国語「3年とうげ」(ワシントン 福嶋加代子×今澤 悌)
  - ③ 小4 国語「ランドセルは海をこえて」(シアトル四つ葉学院 湯村絵里×近田由紀子)
  - ④ 小5 算数「平均」(ダラス 森 寛二×今澤 悌)
  - ⑤ 小6 社会「わたしたちの暮らしと日本国憲法」(ダラス ギャリス裕美子×岡村郁子)
  - ⑥ 中1 数学「比例、反比例の利用」(シンシナティ 末沢敦子×渋谷真樹)
  - ⑦ 中2 国語「漢詩の風景」(プリンストン 笠原朋子×雨宮真一)
- (3) パネルディスカッション「日本語の力が異なる子どもたちをどう伸ばすか」  
 <日時> 2021年2月21日(日) ダラス時間 8:00～9:00  
 (日本時間 23:00～24:00)
- ・ パネラー：学習活動計画作成の授業者(各校1名)
  - ・ 司会：AG5 補習校チーム 佐々信行
  - ・ 形式：Zoom ミーティング

## 2021年度

- <日時> 2021年10月23日(土) 中国時間 14:00～15:00  
 (日本時間 15:00～16:00)
- <場所> Zoomによるオンライン開催
- <テーマ> 日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発  
 交流会『せんせいカフェ』
- 第1部：日本語指導に関するフリートーク(25分)
- A 小学部の日本語指導(個別支援・課外授業・取り出し授業)
  - B 小学部の日本語指導(在籍学級)
  - C 中学部・高等部の日本語指導
- 第1部の情報共有(4、5人のランダムグループで)(15分)
- 第2部：地域別でのフリートーク(20分)
- A 中国
  - B 中国以外のアジア
  - C 欧米・オセアニアなど
- <日時> 2021年11月27日(土) マニラ時間 14:00～15:30  
 (日本時間 15:00～16:30)
- <場所> 合同研究会(マニラ日本人学校主催)
- <テーマ> 「バイリンガル・バイカルチュラル人材育成の汎用性のあるプログラムとは(仮)」

以上

## II. 教師への質問紙調査にみる補習授業校の取り組みと AG5 の成果

### 1 / 質問紙調査の概要

AG5 補習校チームの活動の成果を把握するために、2021 年 8 月に Google フォームを用いたインターネット経由の無記名質問紙調査を実施した。設問は、回答者の補習授業校の地域や規模、回答者自身の教師歴や教員免許の有無などの属性を問うものが9問、AG5 の活動への参加に関するものが13問、自分自身の研修を通じての成長を問うものが1問、自由記述を含めて合計で24問である。質問紙の全文を稿末資料として添付する。

対象者は2020年～2021年のAG5主催の研修（学習活動研究会、初任者研修会、情報交換会等）に参加した補習授業校教師約250名で、回答者は217名であった。調査依頼にあたっては、全補習授業校の校長宛てに協力を依頼した上で、前述の「補習校ネット」ならびに「初任者研修メーリングリスト」を通して行った。

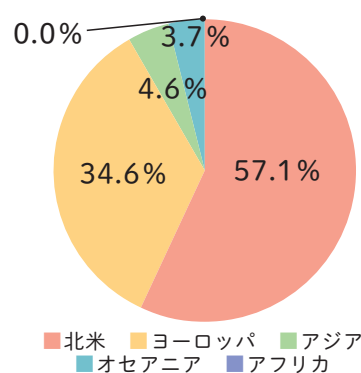
### 2 / 回答者の属性について

#### F1. 補習授業校の地域

北米124名（57.1%）、ヨーロッパ75名（34.6%）、アジア10名（4.6%）、オセアニア8名（3.7%）であり、研修に参加した人数の割合にほぼ一致していた。

#### F1. 補習授業校の地域

	人数	%
北米	124	57.1
ヨーロッパ	75	34.6
アジア	10	4.6
オセアニア	8	3.7
アフリカ	0	0.0
合計	217	100.0

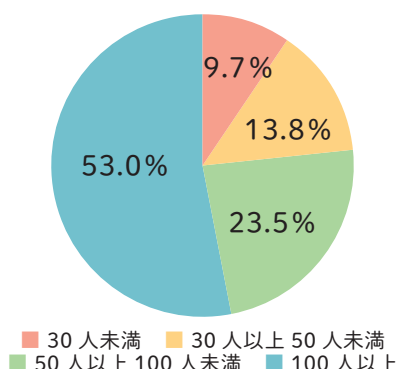


#### F2. 補習授業校の規模

100人以上が115名と最も多く53%を占めたが、50人未満の小規模校からの参加も2割を超えていた。

#### F2. 補習授業校の規模

	人数	%
30人未満	21	9.7
30人以上50人未満	30	13.8
50人以上100人未満	51	23.5
100人以上	115	53.0
合計	217	100.0



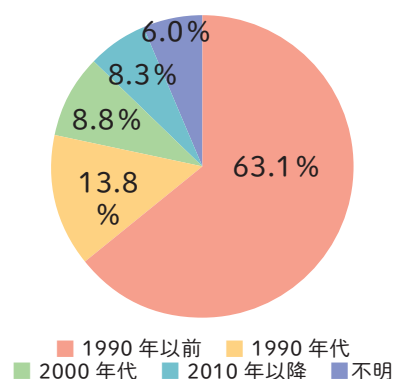


### F3. 補習授業校の設立年

1990年以前が6割以上を占める一方、2010年以降設立の新しい学校も8.3%みられた。

#### F3. 補習授業校の設立年

	学校数	%
1990年以前	137	63.1
1990年代	30	13.8
2000年代	19	8.8
2010年以降	18	8.3
不明	13	6.0
合計	217	100.0

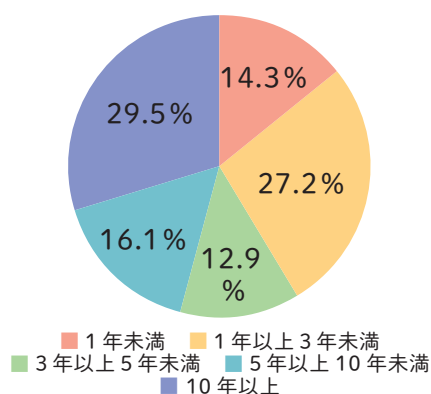


### F4. 補習授業校での勤務年数

1年未満が31名(14.3%)、1年以上3年未満が59名(27.2%)、3年以上5年未満が28名(12.9%)、5年以上10年未満が35名(16.1%)、10年以上が64名(29.5%)であった。

#### F4. 補習授業校での勤務年数

	人数	%
1年未満	31	14.3
1年以上3年未満	59	27.2
3年以上5年未満	28	12.9
5年以上10年未満	35	16.1
10年以上	13	29.5
合計	217	100.0



### F5. 現在の担当学年（複数回答可）

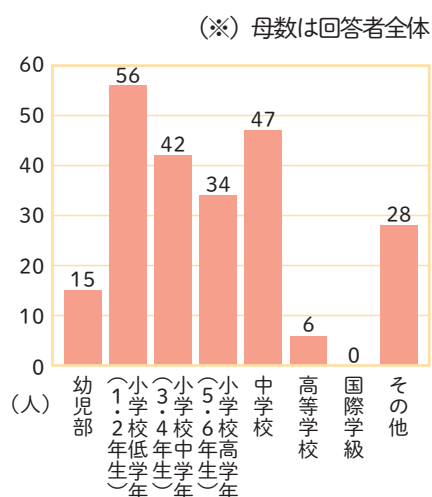
小学校低学年が最も多く56名(25.8%)、次に小学校低学年42名(19.4%)、小学校高学年34名(15.7%)と続き、小学校担当が全体の6割近くに上った。中学校は47名(21.7%)、幼児部は15名(6.9%)であったが、高等学校は6名のみ(2.8%)にとどまった。高等部を擁する補習授業校は限られており、参加者も少なかった。また、国際学級(国際結婚家庭の子どもが多く在籍し、日本語の特別な指導を行うクラス)担当者からの本調査への参加者はみられなかった。

このほか自由記述では、校長、教頭、教務主任、事務局、運営委員、運営委員長、管理職、学校全体のコーディネーター、代講、TA、国語代講、登録講師、という職階からの回答があった。なお、複数の学年を担当している対象者により、以下の回答があった。

- ・全学年の補助、
- ・幼・小学部・中学部・高校部のすべて、
- ・小学1年～中学3年、
- ・小学3年、
- ・小学校高学年の複式クラスと幼稚部
- ・小2と小5、
- ・中学校と高校、
- ・小学3年と中学1年、
- ・小2・3、
- ・小6と中1、
- ・小3～6、
- ・小4と中1、
- ・中学校と小5、
- ・小6と中1

### F5. 現在の担当学年（複数可）

	人数	%（※）
幼児部	15	6.9
小学校低学年（1・2年生）	56	25.8
小学校中学年（3・4年生）	42	19.4
小学校高学年（5・6年生）	34	15.7
中学校	47	21.7
高等学校	6	2.8
国際学級	0	0.0
その他	28	12.9

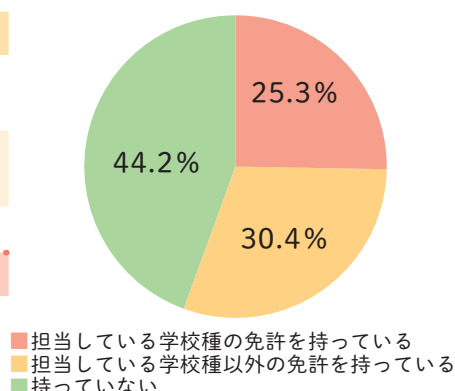


### F6. 教員免許の有無

「担当している学校種の免許を持っている」人が55名（25.3%）、「担当している学校種以外の免許を持っている」が66名（30.4%）であり、免許を持っている人が全体の約55%に上った。一方で「持っていない」と答えた人も96名（44.2%）おり、半数近くが教員免許を保持していなかった。補習授業校の教師になるために教員免許は必須とされておらず、その意味でも初任者研修をはじめとする各種研修の重要性は高いと考えられる。

#### F6. 教員免許の有無

	人数	%
担当している学校種の免許を持っている	55	25.3
担当している学校種以外の免許を持っている	66	30.4
持っていない	96	44.2
合計	217	100.0



### F7. 日本国内での教育経験の有無

教育経験の有無について尋ねたところ、「経験あり」が172名（79.3%）に上り、「経験なし」の45名（20.7%）を大きく上回った。何らかの形で日本において教育経験を持ち、海外に来て補習授業校での教育に携わっている人が8割近いことがわかる。

#### F7. 日本国内での教育経験の有無

	人数	%
教育経験あり	172	79.3
教育経験なし	45	20.7
合計	217	100.0

次に「経験あり」の人の教育経験について詳しく尋ねた。小学校・中学校で「経験あり」と答えたのはそれぞれ40名（18.4%）、38名（17.5%）で、ともに20%に満たず、補習授業校におけるメインの学校種での教育経験のある人はさほど多くないことがわかる。また高等学校の経験者は22名（10.1%）であった。「経験あり」が最も多かった

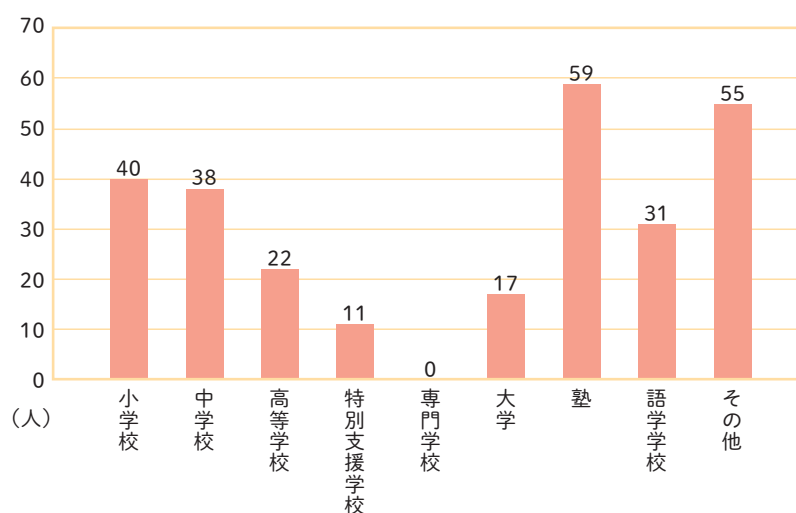
のは「塾」の59名（27.2%）であり、「語学学校」も31名（14.3%）に上った。のちのインタビュー調査でも示されるように、英語の塾などで講師として教えた経験がある場合が多いようである。

「その他」としては、保育園、特別支援学校、語学ボランティア、個人指導、トレーニング施設、音楽教室、家庭教師、サマーキャンプ、企業内新人教育研修、短期大学、家庭教師や自宅での個人レッスン、学校ボランティア、病院（患者、学生実習）、病院薬剤師、コンピューター会社、発達相談室、カルチャースクール、小学生対象の体育教室、在日外国人への日本語教育、リトミック、音楽教室、教育実習、幼児教室、企業向け講習会講師、児童館、大学院、子供英語教室といった回答があり、多様な形で教育に携わってきた人が多いことがうかがわれた。

### F7. 日本国内での教育経験（複数可）

（※）母数は回答者全体

	未経験		経験あり	
	人数	%（※）	人数	%（※）
小学校	177	81.6	40	18.4
中学校	179	82.5	38	17.5
高等学校	195	89.9	22	10.1
特別支援学校	206	94.9	11	5.1
専門学校	217	100.0	0	0.0
大学	200	92.2	17	7.8
塾	158	72.8	59	27.2
語学学校	186	85.7	31	14.3
その他	162	74.7	55	25.3



### F8. 日本国外での教育経験の有無

続いて、日本国外での教育経験について尋ねた。なお、ここでは「現在勤務している補習授業校」での経験を含めるかどうかを質問項目に明示しなかったため、「補習授業校」と回答した161名が、現在の勤務先以外に別の補習授業校で勤務した経験を持つのかどうかは判然としない。「日本人学校」で教えた経験を持つ人が21名（9.7%）、現地校・インターナショナルスクールで教えた経験を持つ人がそれぞれ30名（13.8%）・7名（3.2%）おり、週末の補習授業校以外に平日も教師として勤務している人が一定数いることがわかる。また、大学教員として働く人も23名（10.6%）おり、塾・語学学校で

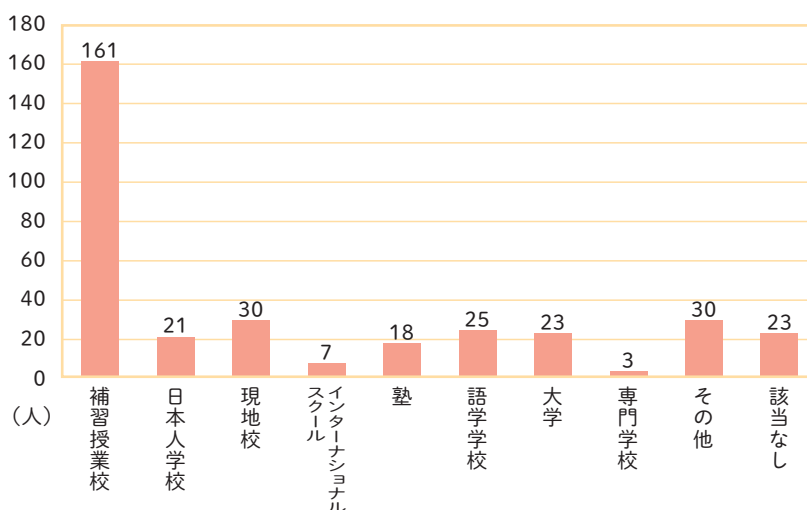
教えている人もそれぞれ18名(8.3%)・25名(11.5%)に上った。

「その他」では、保育園・幼稚園、語学ボランティア、チュータリング、家庭教師や自宅での個人レッスン、日本語教師、市民大学、合気道クラブ、オンラインによる補習、絵画指導、英語家庭教師、アソシエーション、個人指導、カルチャーセンター、モンテッソーリ幼稚園、医薬品取り扱いの指導、企業研修、日本語個人教育、日系の私立高校、バレエ教室、カンボジア国での医療関連地域の日本語講座、日本人プレイグループでのボランティア、プレスクール、日系企業現地採用職員向け研修、現地のサマースクール、政府語学研修施設などの回答があり、教育経験の幅の広さがうかがえる。なお、「該当なし」と回答している人については、現職以前の経験の有無ととらえての回答である。

#### F8. 日本国外での教育経験（複数可）

(※) 母数は回答者全体

	未経験		経験あり	
	人数	% (※)	人数	% (※)
補習授業校	56	25.8	161	74.2
日本人学校	196	90.3	21	9.7
現地校	187	86.2	30	13.8
インターナショナルスクール	210	96.8	7	3.2
塾	199	91.7	18	8.3
語学学校	192	88.5	25	11.5
大学	194	89.4	23	10.6
専門学校	214	98.6	3	1.4
その他	187	86.2	30	13.8
該当なし	194	89.4	23	10.6



#### F9. これまでの研修等への参加経験について

AG5に参加する前に、どのような研修等の経験を持っているのかを尋ねたのが以下の設問である。最も多かった経験が「勤務する補習授業校で他の教師の授業を見る」で182名(83.9%)、次に多かったのが「勤務する補習授業校で他の教師から教育に関するアドバイスを受ける」で154名(71.0%)であった。「勤務する補習授業校での業務として教育に関する研修に参加する」経験を持つ人も137名(63.1%)に上り、「業務以外で」研修に参加すると答えた115名(53.0%)とともに、半数を超えていた。これらは勤務先校での研修であるが、他方、「勤務する補習授業校以外」における研修で

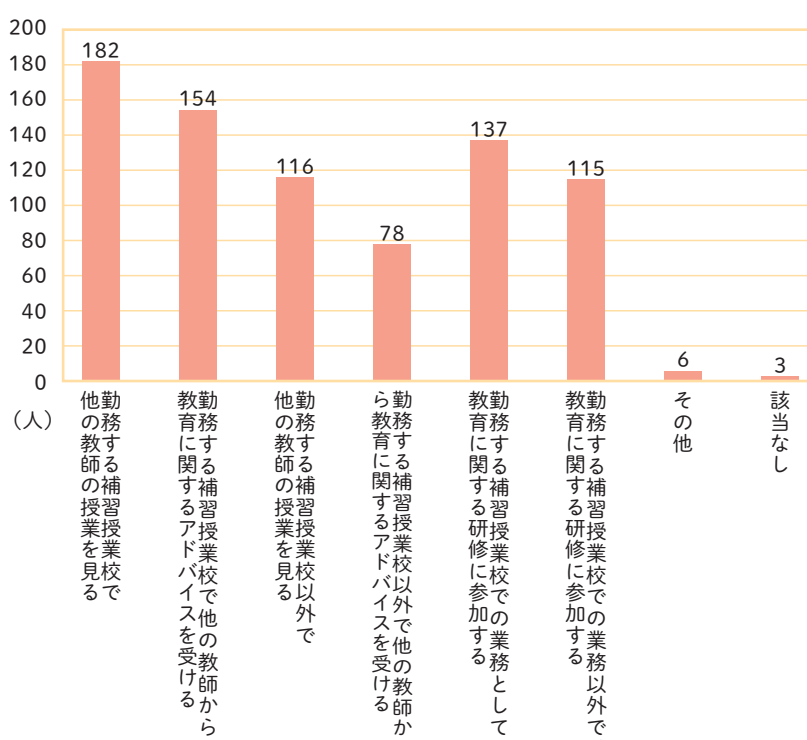
も「他の教師の授業を見る」経験をしている人は116名（53.5%）、「他の教師から教育に関するアドバイスを受ける」経験も78名（35.9%）に上っており、勤務校以外でも比較的豊富に授業見学やアドバイスを受ける機会を有していることが明らかになった。自由記述からは、以下のような研修への参加について回答が寄せられた。

- 日本語教師の Facebook のグループに属している。教育関係の本や、日本の学校のブログを読んでいる。
- オンラインコース受講生同士のアドバイス。
- 当時の校舎長や校長先生へ相談し助言を受けた。クラス合同授業をしたことがある。
- 補習授業校で、日本人学校の教師の授業を見学した。
- 教師経験が10年あるため補習校勤務より以前にさまざまな研修に参加したことがある。
- 勤務する補習授業校で、他の日本人学校の先生に授業をしていただき、研修会を持つ。また、勤務校の授業を日本人学校の先生に見ていただき、アドバイスや研修会を持つ。

**F9. これまでの研修等への参加経験（複数可）**

（※）母数は回答者全体

	経験あり	
	人数	%（※）
勤務する補習授業校で他の教師の授業を見る	182	83.9
勤務する補習授業校で他の教師から教育に関するアドバイスを受ける	154	71.0
勤務する補習授業校以外で他の教師の授業を見る	116	53.5
勤務する補習授業校以外で他の教師から教育に関するアドバイスを受ける	78	35.9
勤務する補習授業校での業務として教育に関する研修に参加する	137	63.1
勤務する補習授業校での業務以外で、教育に関する研修に参加する	115	53.0
その他	6	2.8
該当なし	3	1.4



### 3 / 質問紙調査の結果

以下、質問紙への回答について順に結果をみていく。なお、自由記述欄のある設問については、個人情報に差し障りのない範囲で、寄せられた回答をそのまま掲載した。

#### 3-1 AG5 との関わりとその成果について

ここからの設問では、AG5に参加したきっかけや、活動に対する評価、活動を経ての自分自身や教室の変化について尋ねた。

**問1 | AG5のどのような活動に参加しましたか？**（一度でも参加されたものにチェックをしてください）（複数回答可）

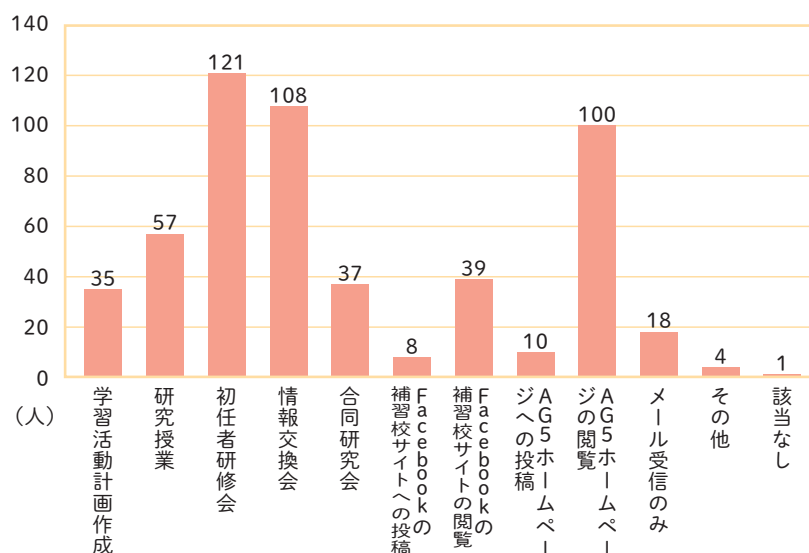
本調査の対象が「初任者研修会」および「情報交換会」の参加者メーリングリストを通じて行われたこともあり、両者の参加者はそれぞれ121名（55.8%）・108名（49.8%）と1、2位を占めている。そのほかの活動としては、「AG5 ホームページの閲覧」が100名（46.1%）、「研究授業」57名（26.3%）、「Facebookの補習校サイト閲覧」39名（18.0%）、「合同研究会」37名（17.1%）、「学習活動計画作成」35名（16.1%）と続く。積極的にホームページやFacebookへ投稿した人はそれぞれ10名（4.6%）・8名（3.7%）と多くはなく、「メール受信のみ」と答えた人も18名（8.3%）いた。

「その他」としては「海外子女教育振興財団の相談員の方からの情報提供」が挙げられた。また、初任者研修の2年目の参加者は6月に研修が始まって3か月足らずでの調査協力となったため、「これから参加する予定である」と回答した人もいた。

**問1 | 参加したAG5の活動（複数可）**

（※）母数は回答者全体

	参加した	
	人数	%（※）
学習活動計画作成	35	16.1
研究授業	57	26.3
初任者研修会	121	55.8
情報交換会	108	49.8
合同研究会	37	17.1
Facebookの補習校サイトへの投稿	8	3.7
Facebookの補習校サイトの閲覧	39	18.0
AG5 ホームページへの投稿	10	4.6
AG5 ホームページの閲覧	100	46.1
メール受信のみ	18	8.3
その他	4	1.8
該当なし	1	0.5



## 問2 | AG5のプロジェクトに関わろうとしたきっかけ・動機はなんですか？（複数選択可）

AG5に関わるきっかけとして最も多かったのは「教育の方法を学びたかったから」で156名（71.9%）、続いて「他校の様子を知りたかったから」136名（62.7%）、「最近の教育の動向を知りたかったから」123名（56.7%）が高い割合を占めた。教育に関する情報や授業に使えるノウハウを学びたいという動機での参加者が多かったことがわかる。一方、「上司にすすめられたから」56名（25.8%）や「同僚にすすめられたから」16名（7.4%）は想定よりは少なく、学校経由で周知をお願いした研修等であっても、自分自身の課題意識に基づいて積極的に参加していたことがうかがわれる結果である。「ネットワークをつくりたかったから」は45名（20.7%）であったが、動機としては二次的であっても、結果的に世界の補習授業校とのつながりを持つことができています。

このほか自由記述より、以下のような多様なきっかけ・動機についての回答が得られた。

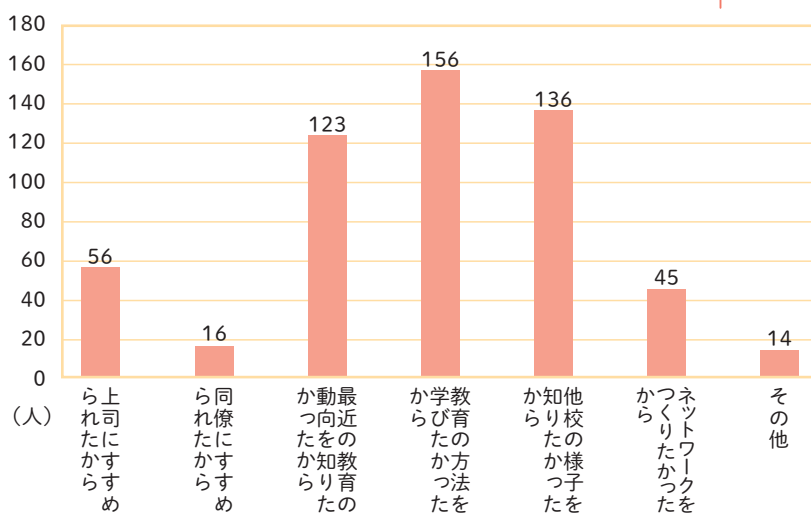
- 同僚が参加しているので。
- 子育てが落ち着いたから。
- 学校で研修の情報の紹介があったから。
- 在外の日本語教育者向けの研修に参加した際に、補習校教師が少数で問題点の共有や解決の方法を探るのには難しいと感じ、補習校に特化した研修があれば自身の疑問点や不安点解決に効果的だと考えたから。
- 勤務校での研修の機会がなく、自己研鑽のため。
- 他の地域、環境における補習校の教育の実情を知りたかったから。
- 同僚が研究授業を行ったので。
- 理事会の方に参加を勧めていただきました。
- 運営委員長になり、初めてこの存在を知り、参考になる情報を得られると思った。
- 海外における日本語での教育について、貴重なリソース・ネットワークであるから。
- コロナにより急なオンライン授業となり、他校のいろいろな情報が欲しかったので。

- 初任者研修会を通して。
- 補習校での具体的で実践的な指導法を学びたいから。
- コロナ禍および多様化してきた児童生徒への授業、また保護者への対応や対策および補習校の運営方法について知りたかったから。

**問2 | AG5に関わるきっかけ・動機（複数可）**

(※) 母数は回答者全体

	人数	% (※)
上司にすすめられたから	56	25.8
同僚にすすめられたから	16	7.4
最近の教育の動向を知りたかったから	123	56.7
教育の方法を学びたかったから	156	71.9
他校の様子を知りたかったから	136	62.7
ネットワークをつくりたかったから	45	20.7
その他	14	6.5



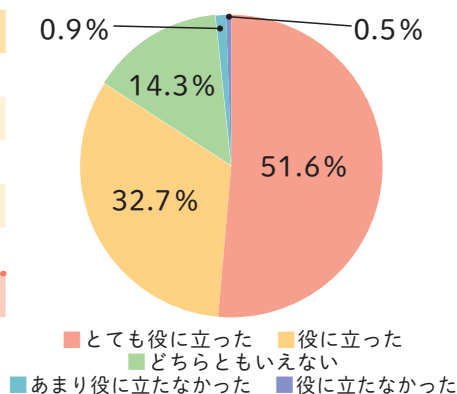
**問3 | AG5の活動は、あなたにとって役に立ちましたか？**

AG5の活動が役立ったかどうかを問う設問については、「とても役に立った」と回答した人が112名（51.6%）で半数を上回った。「役に立った」71名（32.7%）と合計すると、約85%の人が「役に立った」と感じていることがわかる結果である。

「どちらともいえない」と答えた人も31名（14.3%）みられたが、先述のとおり初任者研修会が6月に始まり、調査が8月実施であったことから、今年度初めて参加した人にとってはまだ成果を実感できない段階であったことも想定される。

**問3 | AG5の活動は、あなたにとって役に立ちましたか？**

	人数	%
とても役に立った	112	51.6
役に立った	71	32.7
どちらともいえない	31	14.3
あまり役に立たなかった	2	0.9
役に立たなかった	1	0.5
合計	217	100.0





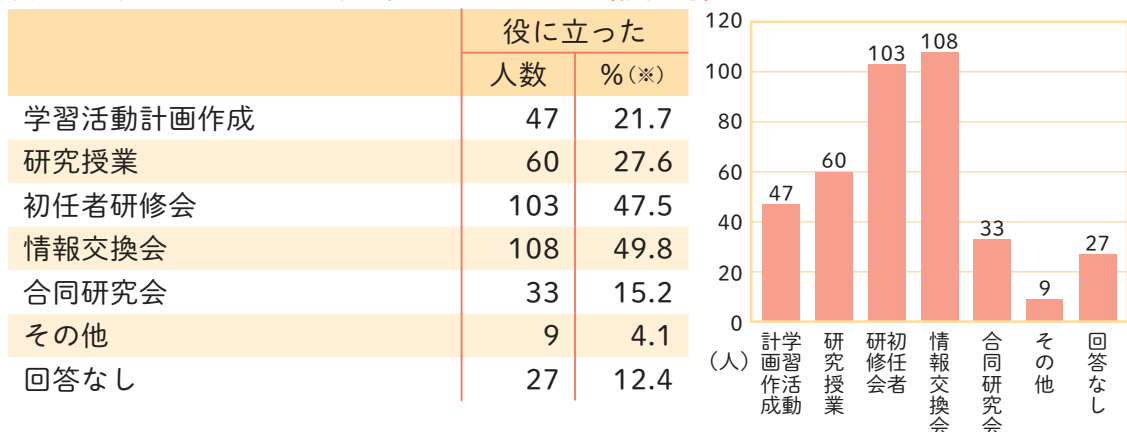
**問3-2 | (問3で「とても役に立った」・「役に立った」とお答えの方へ) AG5のどのような活動が役に立ちましたか？(複数回答可)**

AG5の活動を「役に立った」と評価した人に、具体的にどの活動が役に立ったと感じているのかを尋ねた。最も多かったのは「情報交換会」108名(49.8%)であり、次点の「初任者研修会」103名(47.5%)とともに約半数が「役に立った」と回答した。また「研究授業」「学習活動計画作成」もそれぞれ60名(27.6%)・47名(21.7%)に上っている。「合同研究会」は年1回の開催であり、定期的な開催される他の研修等に比べて参加者が少なかったことから、必然的に回答者も少なかった。

その他自由記述としては「いろいろと閲覧して勉強になった」「交流授業」「情報の整理」「研究授業を作るうえでいただいたアドバイス」「現在の皆様のような教育者を指導する立場の方々の考え方を知れた」「自分が提案したテーマ、企画での情報交換会で、多くの貴重な情報を得られた」「他校の先生との交流」「財団の教育相談員の方からの情報」などが挙げられた。なお、「まだ始まったばかり(2回分のみ受講)なので回答できない」「これから参加予定」とする回答も複数あった。

**問3-2 | AG5のどのような活動が役に立ったか？(複数可)**

(※)母数は回答者全体



**問4 | AG5への参加によって、ご自身にどのような知識や力が身に付きましたか？(複数回答可)**

AG5の活動を通して身についた知識や力について尋ねたところ、以下のような回答となった。100名を超えたのが「最近の教育の動向に関する知識」131名(60.4%)、「授業を計画する力」118名(54.4%)、「授業を実施する力」110名(50.7%)、「教師の仕事についての知識」108名(49.8%)の4項目であった。授業の計画・実施や最近の教育の動向についての知識やスキルを身につけたほか、教師の仕事そのものについても知識を得られたと評価する人が多かったことがわかる。続いては、「児童・生徒に接する力」96名(44.2%)、「他の補習授業校の教師と接する力」57名(26.2%)、「学習成果を評価する力」38名(17.5%)の順となっており、実際に子どもたちに接する力や学習成果を評価する力が身についたとする人も一定数みられた。「上司や同僚とつながる力」は20名(9.2%)で、「他の補習授業校の教師と接する力」より少ない割合であるが、上司や同僚とはAG5の力がなくともつながることはできるが、他校とつながるきっかけは得られなかったと解釈するのが妥当であろう。「保護者と接する力」を挙げたのは23名(10.6%)で、割合としては低かった。

「その他」としての自由記述では、「生徒理解について」「みんな同じようなことで苦

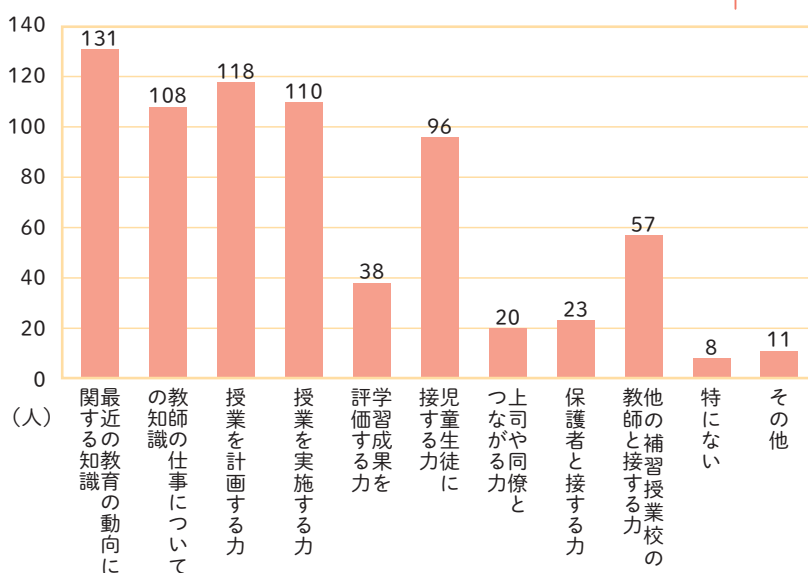
労しているということを知って、自分の悩みも仕方がないと思うようになった」「オンライン授業での工夫」「日本語力に差のある子どもたちへの一斉指導の際に役立つ技術」などが挙げられた。また、「日本国内の学校と海外の補習校での学力の差が大きいことを痛感し、学習評価の仕方を他校の先生方から得た」「学習評価の仕方を他校の先生方から得た」といった『AG5 参加者間での学び合い』の成果についての記載も特筆に値する。

なお本問においても、「これから初参加のため回答不可」「今後に期待」「この4月から勤務したばかりで判断しにくい」「参加して日が浅いので、まだ十分知識や力が身につくまでに至っていません」といった回答者が6名あり、調査時期が早かったことで回答が困難であったことがうかがわれる。

#### 問4 | 身についた知識や力（複数可）

(※) 母数は回答者全体

	身についた	
	人数	% (※)
最近の教育の動向に関する知識	131	60.4
教師の仕事についての知識	108	49.8
授業を計画する力	118	54.4
授業を実施する力	110	50.7
学習成果を評価する力	38	17.5
児童生徒に接する力	96	44.2
上司や同僚とつながる力	20	9.2
保護者と接する力	23	10.6
他の補習授業校の教師と接する力	57	26.3
特にない	8	3.7
その他	11	5.1



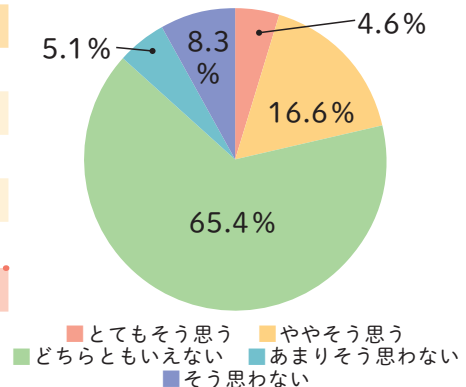
#### 問5 | AG5の活動を通して、指導している児童生徒が変化したと感じますか

指導している児童生徒が変化したと感じるかどうかについては、「とてもそう思う」が10名(4.6%)・「ややそう思う」が36名(16.6%)と、合計して20%強にとどまった。「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した人の自由記述では、その理由について「参加したばかり、学校が休校で、まだ何も取り組んでない」「まだ実践に移せていないから」「まだ受講2回目なので回答できない」「研修後まだ授業を行っていないので現時点では

わからない」とされており、前述のとおり、調査対象者の中でも初任者研修への参加者はAG5の活動にかかわって2か月程度の人が多かったこともあり、児童生徒の変化についてはまだ明らかな手応えが感じられなかったと考えられる。

**問5 | AG5の活動を通して、指導している児童生徒が変化したと感じるか？**

	人数	%
とてもそう思う	10	4.6
ややそう思う	36	16.6
どちらともいえない	142	65.4
あまりそう思わない	11	5.1
そう思わない	18	8.3
合計	217	100.0



**問5-2 | (問5で「とてもそう思う」「ややそう思う」とお答えの方へ) どのように変化しましたか？(複数回答可)**

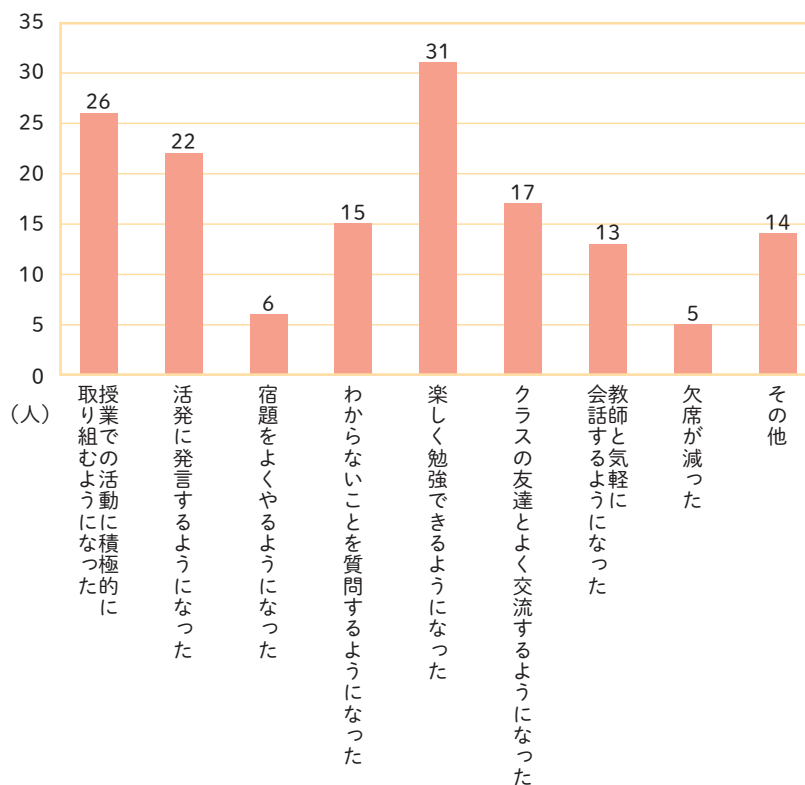
問5で「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した人たちに、具体的な変化について複数回答可として尋ねたところ、「楽しく勉強できるようになった」31名(14.3%)をはじめ、「授業での活動に積極的に取り組むようになった」26名(12.0%)、「活発に発言するようになった」22名(10.1%)が上位を占めた。ほかにも「クラスの友達とよく交流するようになった」17名(7.8%)、「わからないことを質問するようになった」15名(6.9%)、「教師と気軽に会話するようになった」13名(6.0%)といったプラスの効果が見られ、授業での活動やクラス内の交流により積極的に楽しく参加したり、教師や友達とコミュニケーションが取りやすくなったりといった効果が見られたようである。

また児童生徒の変化についての自由記述では、「生徒の変化を具体的に挙げるのは難しいのですが、教師にとって、授業・クラス運営の助けになっています」とのコメントがあり、授業やクラス運営の指針としてAG5の活動が役立ったことがうかがわれる。

一方で「1学期(10回)の授業しか行っていないので、大きな変化は感じない」「初めての参加なのですが、2回の研修で聞いた内容で、2学期から取り入れてみたいことがあります」「効果はまだ実感できていません」という、これからの実践とその効果に期待する声も聞かれた。

**問5-2 | AG5の活動によって児童生徒に起きた変化(複数可) (※)母数は回答者全体**

	人数	%(※)
授業での活動に積極的に取り組むようになった	26	12.0
活発に発言するようになった	22	10.1
宿題をよくやるようになった	6	2.8
わからないことを質問するようになった	15	6.9
楽しく勉強できるようになった	31	14.3
クラスの友達とよく交流するようになった	17	7.8
教師と気軽に会話するようになった	13	6.0
欠席が減った	5	2.3
その他	14	6.5



### 問6 | AG5でよかったと思う点はなんですか？（複数回答可）

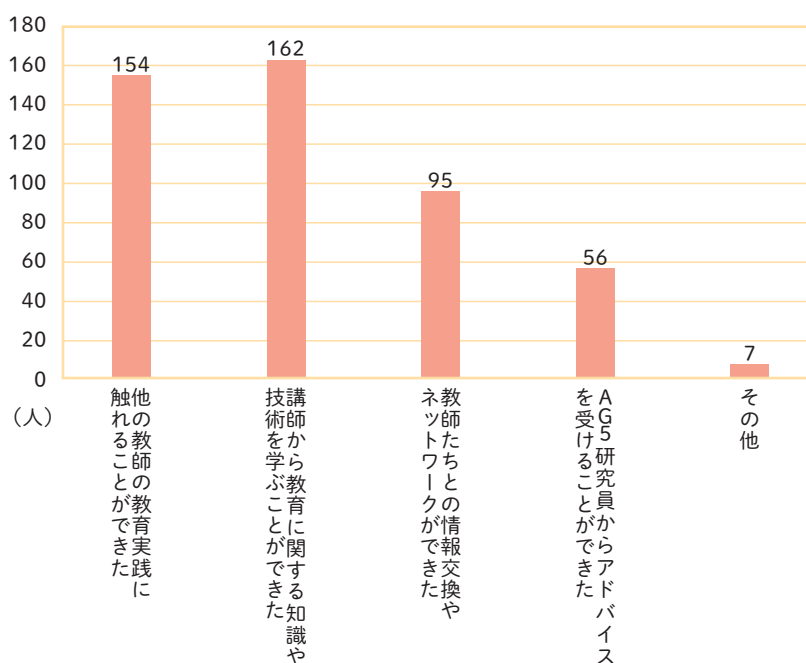
AG5の活動について「よかったと思う点」について尋ねたところ、「講師から教育に関する知識や技術を学ぶことができた」162名（74.7%）、「他の教師の教育実践に触れることができた」154名（71.0%）で、ともに7割を超える回答を得た。また、「教師たちとの情報交換やネットワークができた」人も95名（43.8%）に上り、「AG5 研究員からアドバイスを受けることができた」を挙げた人も多かった（56名、25.8%）。

AG5の活動について振り返ると、「初任者研修」では、AG5メンバーを講師として、授業にすぐに役立つスキルや教室運営や授業デザインのための知識などを学ぶとともに、模擬授業のデモンストレーションも実施し、具体的な授業スキルを学ぶ場となっていたことがわかる。また、研究協力校の中から授業実践者を募集して行った「学習活動検討会（研究授業）」では、授業者がAG5メンバーの助言を得て作成した学習活動計画について検討会を行った後、研究授業の録画を視聴、その振り返りとしての授業検討会の一連の流れをすべて公開イベントして実施し、「他の教師の教育実践に触れる」貴重な機会を提供することができた。最も回数多く行われた「情報交換会」においては、参加者の興味のあるトピックを募って気軽な情報交換を行い、そこで世界の補習授業校教師とのネットワークづくりができたものと思われる。

### 問6 | AG5でよかったと思う点（複数可）

（※）母数は回答者全体

	人数	%（※）
他の教師の教育実践に触れることができた	154	71.0
講師から教育に関する知識や技術を学ぶことができた	162	74.7
教師たちとの情報交換やネットワークができた	95	43.8
AG5 研究員からアドバイスを受けることができた	56	25.8
その他	7	3.2



**問7 | AG5の活動に参加する上で困難と感じたのはどのようなことですか？（複数回答可）**

活動に参加する上で何かしらの困難を感じた人は124名（57.1%）で、全体の約6割に上った。

**問7 | AG5の参加で何かしらの困難を感じるか？**

	人数	%
何かしらの困難がある	124	57.1
特に困難はない	93	42.9
合計	217	100.0

「何かしらの困難がある」と回答した人に対し、困難であった点を具体的に尋ねたところ、99名（45.6%）が「活動の曜日や時間が合わない」ことを挙げた。また、「多忙で時間や労力を割くことができない」とした人も48名（22.1%）おり、平日も忙しいスケジュールを抱える中、週末には補習授業校で教鞭をとり、さらに曜日や時間の都合をつけて研修に参加することの困難さが明らかになった。日本からオンラインで発信する場合には時差の関係もあり、平日の早朝勤務前や、深夜・未明に参加することになるケースも多々みられ、今後工夫が必要な点である。また、「扱われているテーマが自分のニーズに合わない」との回答も26名（12.0%）あり、こちらも今後の課題として検討していきたい。

自由記述では、「通常の補習校業務とAG5活動との時間のやりくり」「別の仕事との兼ね合いと、時差があるため、オンラインの講義に参加するのが難しい」「勤務に生かすことを目的として受講しているが、勤務時間には計上できないこと」などの困難が挙げられた。また、「今回は深夜からのスタートだったのでビデオを閲覧した」という記述のとおり、AG5側で録画を一定期間公開することで、より多くの方に参加していただける工夫を行った。

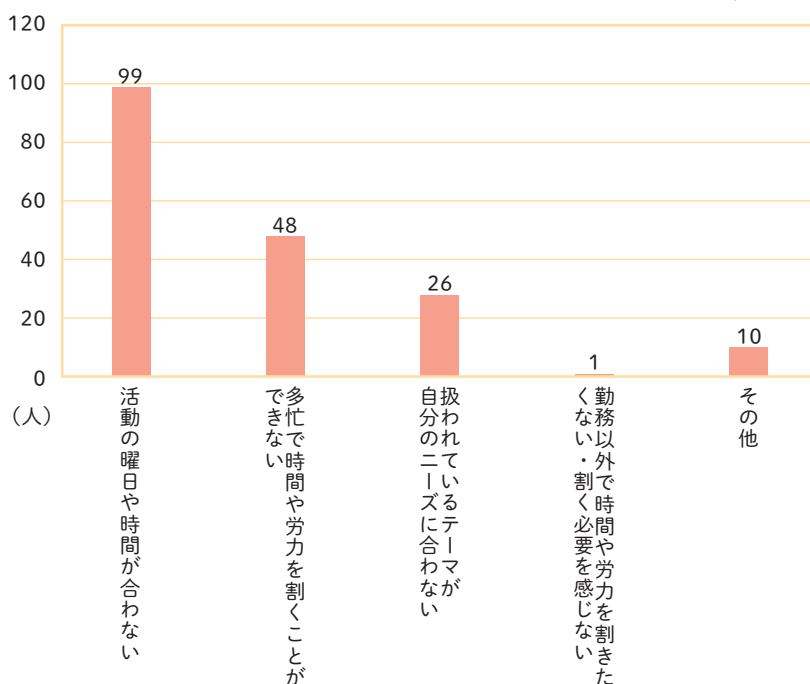
さらに、その他として、「情報交換会などの情報はAG5担当者よりメールが来るので内容を把握できるのですが、それ以外の活動がどのような形でどこで行われているの

か少し不透明に感じました。あと HP が少しわかりづらい」という意見が寄せられ、広報や周知の工夫が望まれる。このほか、「オンラインだと難しいのはわかっていますが、先生の授業の様子（例えばどんなふうに子どもたちに声かけしているのか）など見ることができたらいいと思います」といった希望や、「補習校を思う気持ちは人一倍あるが、教師ではないので、学習指導に役に立つようなことを提供できない。また、どういう立ち位置で参加していいのかわからない。今のところは、交流会後にまとめられた資料を読み、我々に当てはまる内容（アドバイスとなる部分）をピックアップしている」という、参加者の立場による困難も述べられた。

### 問7 | AG5の参加で困難と感じたこと（複数可）

（※）母数は回答者全体

	人数	%（※）
活動の曜日や時間が合わない	99	45.6
多忙で時間や労力を割くことができない	48	22.1
扱われているテーマが自分のニーズに合わない	26	12.0
勤務以外で時間や労力を割きたくない・割く必要を感じない	1	0.5
その他	10	4.6

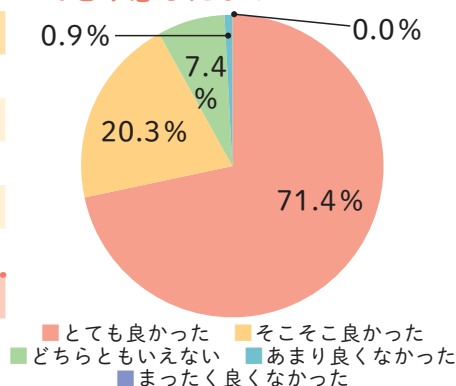


### 問8 | AG5の研修がオンラインで行われたことについてどう感じましたか？

AG5が始まった2017年から2019年のコロナ禍前までは、AG5メンバーが年に数回アメリカへ出張し、研修や講演を直接行っていた。ところが2020年からのコロナ禍においては、すべての研修がオンラインに切り替わった。このことについては「とても良かった」と回答した人が155名（71.4%）に上り、「そこそこ良かった」とする44名（20.3%）と合わせると9割以上が「良かった」と感じていたことがわかる。AG5では、コロナ禍の前からZoomを活用し、協力校であるダラス補習授業校における講演を世界の補習授業校に向けて同時配信したり、講演会や研究会をオンラインによって実施したりしていた。世界の補習授業校をつなぐためにオンライン実施はある程度前提となるが、コロナ禍においてそれが加速し、結果的に早期のオンライン授業導入への足掛かりになったとする声もある。

問8 | AG5の研修がオンラインで行われたことについてどう感じたか？

	人数	%
とても良かった	155	71.4
そこそこ良かった	44	20.3
どちらともいえない	16	7.4
あまり良くなかった	2	0.9
まったく良くなかった	0	0.0
合計	217	100.0



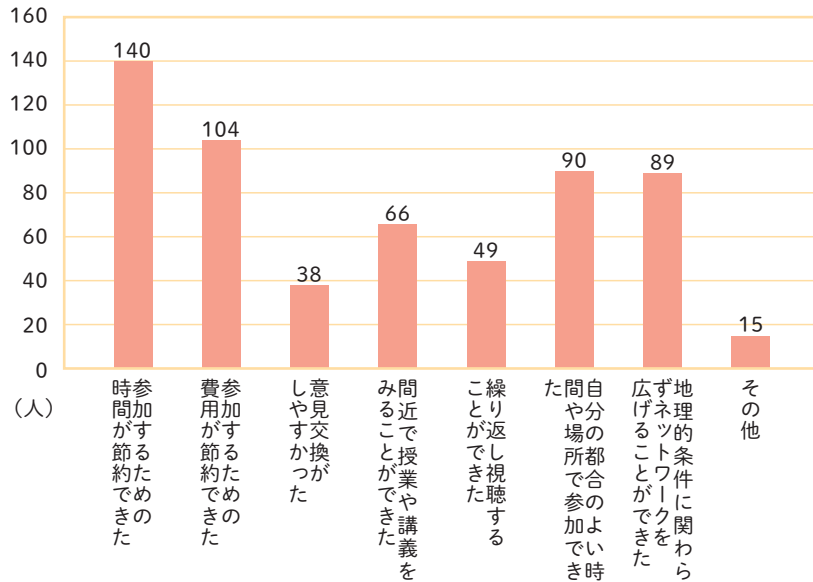
問8-2 | (問8で「とても良かった」「そこそこ良かった」と答えた方へ) それはどうしてですか？ (複数回答可)

オンラインによる研修のメリットを具体的に聞いたところ、最も多かった回答は「参加するための時間が節約できた」(140名、64.5%)であり、「参加するための費用が節約できた」が104名(47.9%)でそれに続いた。コロナ禍においては国内外すべての出張が中止となり、結果的には時間と経費の節約になったともいえる。また、自宅をはじめ自分の都合の良い場所から参加できるメリットも大きい。しかし、対面の良さはオンラインでは完全に代替できないものでもある。今後はコロナ禍で培ったオンラインのスキルやノウハウを活かし、その良さを残しながらも、対面が可能になれば、対面でしか伝えられないことを効果的に伝える工夫が求められるであろう。さらに、「自分の都合のよい時間や場所で参加できた」(90名、41.5%)、「地理的条件に関わらずネットワークを広げることができた」(89名、41.0%)を挙げた人も多く、特に交通の便のよくない場所に位置する補習授業校からの参加では、世界各地の補習授業校がオンライン上で一堂に会するZoomの画面上でそれを実感した人は多かったであろう。「間近で授業や講義をみることができた」(66名、30.4%)と感じた人も多く、実際の距離は遠くとも、オンラインであるからこそ「間近」に感じることができたメリットは大きいものがある。

自由記述では、「世界中の先生方の参加がみられて勇気づけられ、励まされました」「国をこえて貴重な教育や補習校に関する話を聞くことができた」「世界中の補習校の先生方の情報を得ることができた」との声が聞かれた。特に1年目の初任者研修では『補習校紹介コーナー』を設けて世界の補習授業校の活動の様子を紹介し合い、居ながらにして補習校巡りの旅ができたことも有益であったと思われる。

問8-2 | AG5の研修がオンラインだったことのメリット (複数可) (※)母数は回答者全体

	良かった理由	
	人数	% (※)
参加するための時間が節約できた	140	64.5
参加するための費用が節約できた	104	47.9
意見交換がしやすかった	38	17.5
間近で授業や講義をみることができた	66	30.4
繰り返し視聴することができた	49	22.6
自分の都合のよい時間や場所で参加できた	90	41.5
地理的条件に関わらずネットワークを広げることができた	89	41.0
その他	15	6.9

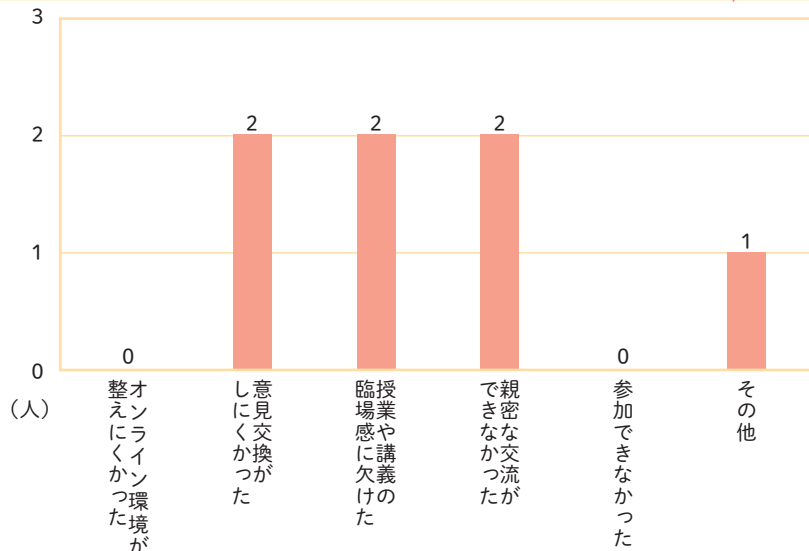


**問 8-3 | (問 8 で「まったく良くなかった」「あまり良くなかった」と答えた方へ) それはどうしてですか。(複数回答可)**

逆に、オンラインであったことのデメリットについて挙げた人は少なかったが、「意見交換がしにくかった」「親密な交流ができなかった」「授業や講義の臨場感に欠けた」と答えた人が 2 名 (0.9%) ずつみられた。逆に、99% 以上がこうした不都合を感じることなくオンライン研修に参加し、また、「オンライン環境が整えにくかった」「参加できなかった」とした人は 1 人もいなかった。

**問 8-3 | AG5 の研修がオンラインだったことのデメリット (複数可) (※) 母数は回答者全体**

	良くなかった理由	
	人数	% (※)
オンライン環境が整えにくかった	0	0.0
意見交換がしにくかった	2	0.9
授業や講義の臨場感に欠けた	2	0.9
親密な交流ができなかった	2	0.9
参加できなかった	0	0.0
その他	1	0.5





### 3-2 コロナ禍による補習授業校への影響と変化

以下の【問9】～【問11】は、5年間の研修のうち後半の約2年間に占めたコロナ禍における補習授業校の対応や変化に関する質問である。これらはAG5の活動の成果とは直接の関係はないが、この活動の大半がコロナ禍にオンラインで実施されたこともあり、報告に値すると考えた。【問11】の自由記述にはとりわけ多くの回答があり、いずれの補習授業校においても、コロナ禍における教育の苦労が非常に大きかったことを感じる結果となった。

#### 問9 | コロナ禍によって、あなたの勤務する補習授業校ではどのような影響がありましたか？（複数回答可）

コロナ禍による補習授業校への影響についての回答では、まず「授業がオンラインになった」ことがほぼすべての学校に共通していた（208名、95.9%）。次に多かったのが「児童生徒数が減った」との、回答（58.1%）で、この点は補習授業校に特徴的な影響と考えられるが、これにはコロナ禍による企業の撤退を受けて日本に帰国することになったケースも一定数含まれると推測される。また、補習授業校は日本人の子どもたちが実際に集まる場で、日本語により学習する点が大きな魅力である。その環境を求めて補習授業校に通っている場合、オンライン授業が続きリアルに会う機会が長期間にわたって失われたことで、退学の判断をする家庭もあったと考えられる。

「教材・教具などの準備が遅れた」との回答も97名（44.7%）に上り、オンライン授業で利用する機材や電子テキストの準備、あるいは宿題の配付・回収方法等のやり取りなども、軌道に乗るまでは時間を要した可能性がうかがえる。さらに、数は少ないながらも深刻な回答として「派遣教師が赴任できなかった」という回答も14名（6.5%）にみられた。ちょうど新学期の開始時期に感染拡大によって渡航がストップしたことで、影響は大きかったとみられる。

「その他」の自由記述に寄せられたコロナ禍の影響には、以下のようなものがあった。以下、個人情報等にかかわらない範囲で、回答者から寄せられた意見をそのまま掲載する。

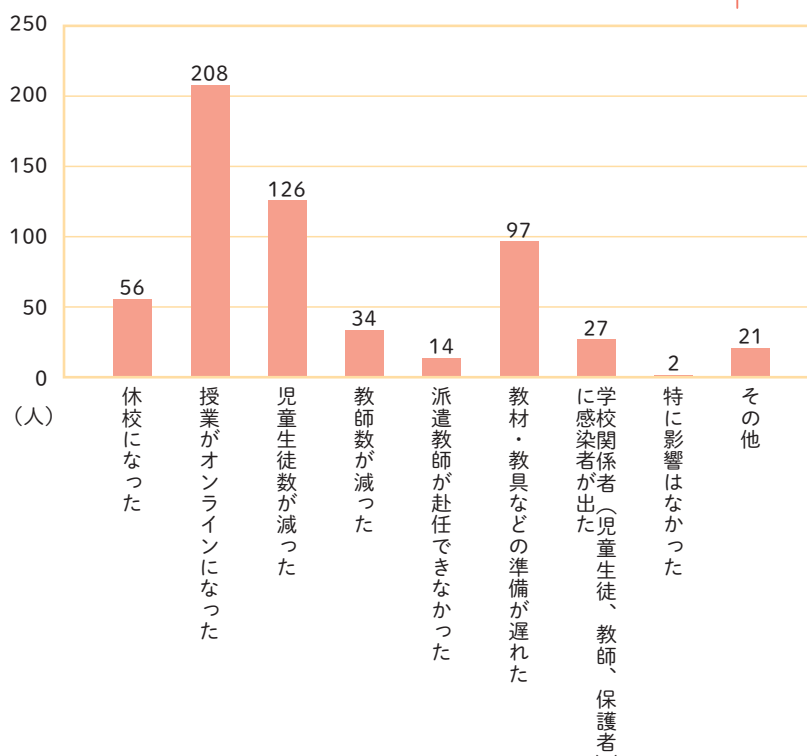
- 行事や異学年交流が中止になった。
- オンライン授業の準備などに通常の数倍の時間が必要であり、かなり過重であった。
- オンライン切替まで自宅学習となった。
- 学校に保管してある教材教具を利用できなかった。また、児童生徒に図書を利用させられなかった。
- 2020年度は小学校の教科書改訂時期で、ロックダウンの影響で教科書配付が1か月半遅れました。
- オンライン授業の準備に非常に時間を費やした（PowerPoint、資料のデータ化）。
- 授業以外の活動である行事やクラブ活動がほぼ全て中止になり、学校全体としての教育の機会、クラス外のつながりがほぼゼロになった。
- オンライン授業が得意不得意の講師の差が出た。対面での授業ができる講師、できない講師が出た。

- 昨年度はオンラインで授業をしていたと伺っています。本年度は上記に該当するものはありません。
- 派遣教師の赴任が遅れた。
- 生徒数は、新たな生徒を迎え増えたのだが、実際コロナ禍で帰国した生徒で未だ戻ってこられない子もいる。コロナ禍で特別に休学を取り入れたのだが、この状態がここまで長く続くとは思わず、そのしわ寄せがあった。コロナによる特別措置であったが、1年以上のオンライン授業になってしまい、その間休学している生徒の学習の遅れをどう取り戻すのか？今更だが、校則に則り適性テストをするべきか？という問題。さらに、休学している生徒の分の傷害保険を払い続けることになる等。さらに細かいことを言えば（中略）、補習校をサポートしている日本の政府や日本人会への迷惑、子が通っている大使館職員などへの迷惑など考慮して、いまだに対面授業を再開できていない。現在はワクチン接種を一つの基準とし、夏明けには対面授業をスタートするつもりではあるが、それまでは、補習校教師への補償がないことも、リスクを避ける一因となった。
- 教室の人数制限のため、生徒集会や授業参観ができなかった。また、卒業式も半年遅れて屋外で行った。
- 授業の準備時間がさらに長くなった。
- 運動会や新年会など学校の一大イベントが実施できなかった。
- 児童がコロナに感染したが、オンライン授業だったため、普通に授業を受けていた。休暇で他の国に居ながらオンライン授業に参加する児童もいたが、集中力が欠けたのであまり良かったとは思わない。
- 学校全体の30%（低学年）が対面を希望したが、叶っていない。学力差が生じていると感じる。できる子はでき、苦手と感じている子はより苦手になっていく。女子は特に教室が社交の場という面もあるので、学習だけの補習校に魅力を感じにくいように思う。
- 体温表・誓約書・通路通行制限・保護者が校舎に入れなど、いろいろ。
- 授業時間がオンラインのため短縮された。
- 昨年度はオンラインと対面と両方、現在は対面。
- 教室で対面授業をしながら、一部の児童とオンラインでつなげながら授業をした。
- 派遣教師（校長・教頭）の赴任が随分遅れた。
- 補習校が借りていた高校の教室が借りられなくなった。公園での青空教室を行った。
- 「オンラインは対面より授業時間が少ないので給与削減」となり、オンライン2年目には「生徒数減で予算が無いので昇給なし」となったのが残念です。

問9 | コロナ禍による補習授業校への影響（複数可）

(※) 母数は回答者全体

	人数	% (※)
休校になった	56	25.8
授業がオンラインになった	208	95.9
児童生徒数が減った	126	58.1
教師数が減った	34	15.7
派遣教師が赴任できなかった	14	6.5
教材・教具などの準備が遅れた	97	44.7
学校関係者（児童生徒、教師、保護者）に感染者が出た	27	12.4
特に影響はなかった	2	0.9
その他	21	9.7



問10 | コロナ禍に対応するため、どのような教育上の工夫をしましたか？（複数回答可）

「コロナ禍に対応するため、どのような教育上の工夫をしましたか？」に対する回答結果として、最も多かったのが「オンライン双方向型の授業」で、190名（87.6%）に上った。「オンデマンド（録画の配信等）による授業」も37名（17.1%）みられたが、多くは双方向型で行われていたことがわかる。また課題についてはすべてがオンラインでのやり取りではなく、「郵送」を用いたという回答も26.7%に上り、「ML（メーリングリスト）を使った連絡」の20.7%と同程度であった。オンラインやメール等による個別相談についてはそれぞれ39.2%、47.9%が対応をしていた。通常の対面授業の際にもこうした形での個別対応を行っているかどうかは定かではないが、コロナ禍においてはさまざまな工夫により、保護者とのより緊密な連携を図っていたと考えられる。

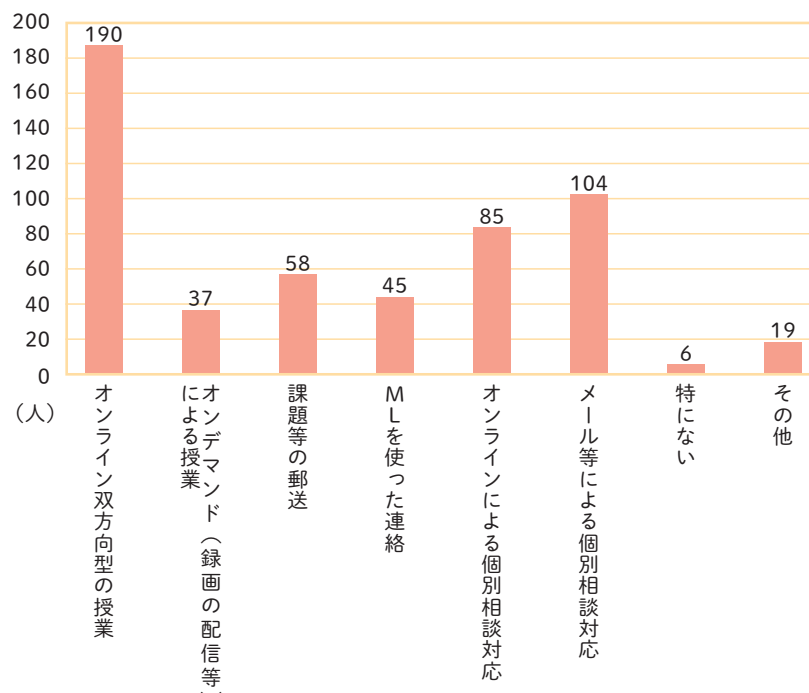
このほか、自由記述により以下のようなコメントが寄せられた。Google ClassroomやZoomをはじめ多くのツールを駆使し、効果的なりモート授業のために多くの工夫をおこなっていたことがわかる。

- 日本語で文章を書く（作文、感想文、作詩、俳句、短歌など）機会を増やした。
- PCの機能を使ってオンラインだからできる授業を確立できた。
- Google Classroom や Zoom などでのネット環境の整備。
- 課題やプリントを事前にメールで連絡したり、ビデオ教材を視聴したりしました。
- Google Classroom による連絡、宿題の提出と返却。
- 課題などのオンラインでの配信。
- Google Classroom を使った宿題やクイズの管理。
- 各クラス、教科で Google Classroom を開設した。グループごとの Meet を作り、話し合いを行ったり、プリント配付の代わりにスプレッドシートやドキュメントなどを用いてクラス全体で書き込めるようにしたり、Google Classroom 内で提出する方法も用いた。
- 宿題プリント、テスト、授業用プリントのデジタル化。
- Learning Management System（Google Classroom）のフル活用。
- リモートが可能になったことにより、日本から発信しているイベントへの参加が可能になった。国内の学校と同じようにイベント申請し、（実施時間の優遇はしていただかないとならなかったが）実際に実施し、非常に良い体験ができた。教育上という部分だけでなく、精神的に疲れてきている生徒たちのモチベーション向上を図るという意味でも、大いに役立った。
- 本校ではコロナ禍でも教室での授業を続けましたが、参加できない子どもがいた場合は担任が個別対応をし、課題をメール等で送ったり、オンライン授業を行ったりしました。
- Google Classroom を活用。使いにくいところは多少あるが、大変便利。
- 課題・通信の配付は ML で課題提出を Google Classroom へ。紙配付をなるべく避ける。子どもの家庭学習の意欲の維持のために、提出課題をチェックした後、大きな花丸とメッセージを添えてメールで返却。
- どうしたら楽しくできるか、いろいろ検討しました。
- 課題のメール配信と回収。
- 学校で Google Classroom を使用しています。
- Google ドライブに毎週のオンライン授業用ワークシート、宿題を入れて共有した。
- 感染はしていないが、濃厚接触者で欠席を余儀なくされた生徒へ、対面授業の LIVE 配信を行った。

問10 | コロナ禍に対応するの教育上の工夫（複数可）

(※) 母数は回答者全体

	人数	% (※)
オンライン双方向型の授業	190	87.6
オンデマンド（録画の配信等）による授業	37	17.1
課題等の郵送	58	26.7
MLを使った連絡	45	20.7
オンラインによる個別相談対応	85	39.2
メール等による個別相談対応	104	47.9
特にない	6	2.8
その他	19	8.8



問11 | コロナ禍により、補習授業校ではどのような変化がありましたか？（複数回答可）

「コロナ禍における補習授業校での変化」に関して、各項目につき5段階で回答してもらった結果が次の図である。「とてもそう思う」との回答が最も多かったのは「ICTの導入が進んだ」点であり、「ややそう思う」を加えると7割を超えた。補習授業校ではもともと電子教科書などICTの活用が進んでいた学校や、保護者の協力を得てICTの活用に積極的であった学校もあり、10%程度の「そう思わない」「あまりそう思わない」との回答については、コロナ禍以前からの導入が進んでいたことが背景にあると推察される。次に「とてもそう思う」と回答が多かったのが「児童生徒の欠席が減った」ことで、「ややそう思う」を加えると、肯定的な回答は43.5%に上った。土曜日に授業が行われる補習授業校では、スポーツの試合や行事などが重なって授業を休んだり、遠方からの通学のため保護者の送迎の都合により欠席となったりすることがあるが、オンライン授業であれば一部でも授業に参加することができ、欠席の減少につながったと考えられる。

逆に「そう思わない」との回答が多かったのは「宿題の確認がしやすくなった」ことで、「あまりそう思わない」との合計は42.6%に上った。補習授業校ではワークブックやプリント等、実際に提出を要する宿題が多く、採点後の返却などにもオンラインでは

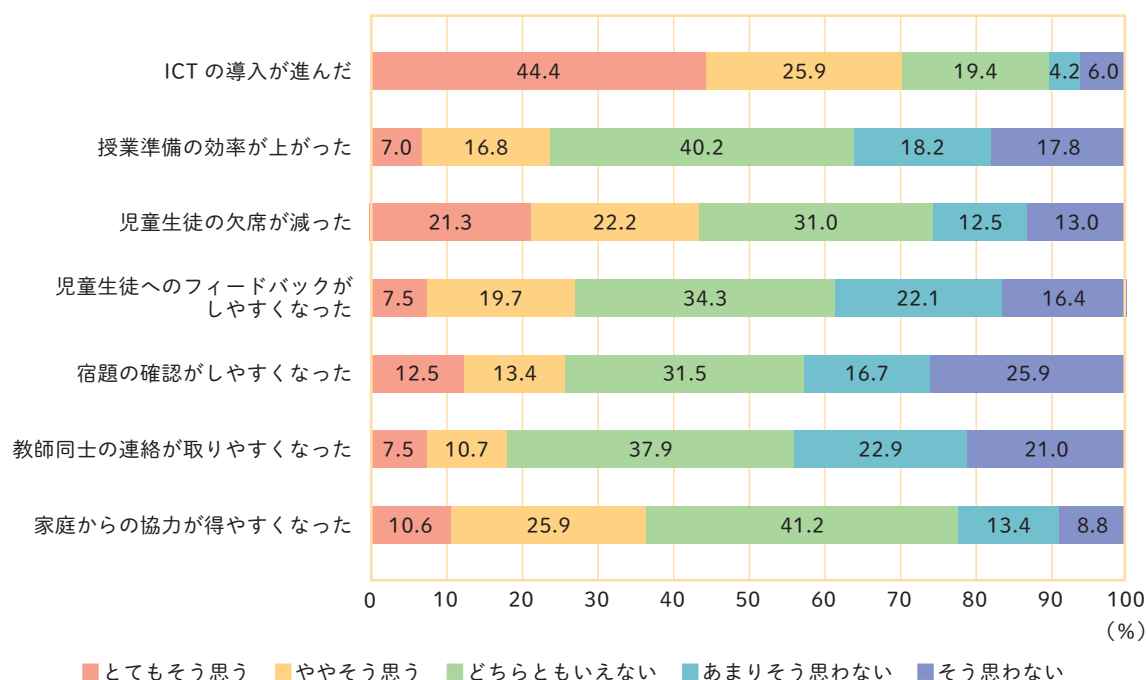
難しさがあったと推察される。また、「授業準備の効率が上がった」の項目についても否定的な回答の割合が36%で、肯定的な回答の23.8%をやや上回っており、オンライン授業の準備が対面に比べてさほど効率的でなかったことも明らかになった。

教師同士や家庭との連携についての項目では、「教師同士の連絡が取りやすくなった」については、43.9%が「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答しており、たとえ週一度であっても、お互いに顔を見て教師間の連絡を取ることが重要と考えていることもうかがわれた。逆に、「家庭からの協力が得やすくなった」という点では肯定的な回答(36.5%)が否定的な回答の割合(22.2%)を上回っており、オンライン授業によって家庭との連携が強まったと感じた教師が多かったようである。コロナ禍ではオンライン授業を子どもと一緒に聞いている保護者もあり、補習授業校でよくいうところの「第二の学校」である家庭が、その機能を果たす機会となったこともうかがわれる。

**問 11 | コロナ禍での補習授業校での変化（複数可）**

(※) 母数は回答者全体

	とても そう思う		やや そう思う		どちらとも いえない		あまりそう 思わない		そう 思わない		合計 人数
	人数	%(※)	人数	%(※)	人数	%(※)	人数	%(※)	人数	%(※)	
ICTの導入が進んだ	96	44.4	56	25.9	42	19.4	9	4.2	13	6.0	216
授業準備の効率が上がった	15	7.0	36	16.8	86	40.2	39	18.2	38	17.8	214
児童生徒の欠席が減った	46	21.3	48	22.2	67	31.0	27	12.5	28	13.0	216
児童生徒へのフィードバックがしやすくなった	16	7.5	42	19.7	73	34.3	47	22.1	35	16.4	213
宿題の確認がしやすくなった	27	12.5	29	13.4	68	31.5	36	16.7	56	25.9	216
教師同士の連絡が取りやすくなった	16	7.5	23	10.7	81	37.9	49	22.9	45	21.0	214
家庭からの協力が得やすくなった	23	10.6	56	25.9	89	41.2	29	13.4	19	8.8	216



問 11-2 | その他、コロナ禍による変化があれば、具体的にお書きください。

- 教師がオンライン授業を拒否する方が多く、実現できなかった。先生方を説得できなかったことに、とても悔いが残る。
- 働き方改革が進められた。
- ICT化デジタル化が急速に進んでいる。
- 学校に来るのは友達に会うためと公言する生徒がやめていきました。また、日本語力が低い家庭の引き上げが大変難しいです。
- 自律学習力がより問われるようになった。
- オンライン授業に積極的に参加（発言や質問をするなど）している生徒と、消極的に参加（出席はしているが、授業を聞いているのかどうか分からない）している生徒の学力に大きな差が出ているのではないかと、心配である。日本語を話す、聞く、書くが苦手な生徒が、約1年半の休校とオンライン授業という非対面での授業で、日本語力が大きく後退したのではないかと心配である。9月以降の対面授業でこの結果がわかると思うが、少なくとも、日本語力の維持は難しかったと思われる。
- 天候などの影響に関わらず開校できるようになっていけば良い。
- Zoom 授業なので、スポーツなどをやっている子どもは、移動中の車からでも授業に参加できることがすごいと思った。
- オンラインを活用しての活動が増えるなか、この機会に教職員がIT機器の使用に積極的になれたことは今後も生かせると思う。
- コロナ禍によって休校となり、再開に向けて、Google Classroomを導入しました。これに学校として登録することで、無料で使えることとなり、大変役に立ちました。また教師もGoogle Classroomを使いこなすべく、お互いに切磋琢磨しました。これらの知識は、これからも役に立つと思います。例えば年に数回発生する代替校舎の使用費はとて高かったのですが、これからは、校舎を借りる代わりにオンラインでできます。宿題や保護者とのやりとりなど、対面に戻ってからもGoogle Classroomを使い続けるつもりです。教師の給料は安く、ボランティアでほぼやっている状態なので、なるべく簡素化を図っていきたいと思っています。
- エピソードが乏しく、成績表の所見で良いところを書くのが大変だった。
- オンライン授業の授業準備、課題作成等に時間がかかり、平日の仕事との両立が難しかった。
- どんな状況でもオンラインならば授業ができるメリットと、対面授業でなければできないことの多さに気がつきました。
- 授業時間数が減ったので、家庭学習の時間が多くなってしまった。
- 新しい授業スタンダードができた。
- オンライン授業であれば必要ないという意見も多く、補習校存続が危ぶまれている。交流目的で通学させている家庭が多いため。
- 教師や生徒両方のそれぞれの補習校に対する意識が強まったのではないかと感じます。

- 日本への一時帰国を控えている家庭が多いため、生徒や保護者にもその影響が出てくると考えられます。通常ですと、夏期の一時的帰国で日本語、日本文化に触れる機会が得られる家庭が多いので、それは補習校授業の学習効果にも良い影響を与えられます。
- オンライン授業になり、各家庭の協力の差が際立った。(宿題消化やワーク提出など)
- 授業時間の短縮で、今まで授業で参加できなかった課外活動の参加が可能になった。
- オンライン授業の経験しかないため、わからない。
- 児童のグループ学習ができなかった。学年発表ができなかった。
- さまざまな可能性を探ったり、行事を見直したりするきっかけとなった。
- 個別対応の時間が増えました。
- 授業時間が短縮されたため、今まで以上に要点を押さえた授業のために、わかりやすい説明やさまざまな工夫が求められた。
- 対面による対人関係に代わる方法が見つからず、補習校を通したつながり意識が薄れた。
- 職員と保護者との関係が悪くなって、大量の職員が辞めた。
- パンデミックと同時に着任したので、わからない。
- 生徒中心の参加型の授業に重きを置くようになった。
- 授業参加しているか、ノートを取っているかなどの細かいことを確認することが難しい。
- 授業外のメールによるやりとりがとて増えた。
- 本格的な勤務がコロナ禍以降なのでコロナ禍以前と比べることは難しいですが、児童一人一人への対応に難しさを感じます。またオンライン授業では教師が話しているときに児童が割り込んで話し始めると教師の声がかき消されてしまい、児童から不満の声がありました。「先生が話しているときは静かにしている」というマナー的なことに、より一層注意を払わなければならなくなったと感じます。
- 教育課程を見直し、働き方改革が進んだ。
- 他の補習校の取り組みを参考にするようになった。
- 生徒集会ができないため、生徒全員に話をしたり、注意したりするような機会がなくなった。
- 長期(9か月)のオンライン授業を強いられたので、生徒の学習状況が正確にはつかめなかったことと、保護者の家庭指導に頼ることが多くあり、保護者の生活状況や子どもの数などに左右された。幼稚園の休園が目立った。小中学部は今後の学習に影響するせいか休学者は少なかった。
- オンライン授業では十分な指導ができないため、子どもの学力向上に影響があることは、今後対面に戻った際の大きな課題となると感じている。
- 毎週 Google Meet 職員室に集まったので、教師同士のつながりが強くなった。運営委員長や校長も参加したので、運営委員会に情報が流れやすくなった。
- Google Classroom の活用で宿題のチェックや採点が、週末に集中せずにできるようになった。また常にワークブックが児童生徒の手元にあるので、宿題が出しやすかった。



- 返却物を保護者や児童生徒がきちんと見直しているか／コメントを読んでいるかは、確認しにくかった。
- 提出書類がメールでOKとなったので、楽になった。
- 通知表を初めてPDFで配付した。時間と費用の節約になった。
- 算数セットが貸し出しできなかったため、テンプレートを作って各家庭にお道具を作成してもらった。保護者の協力状況がよくわかった。
- 児童同士のコミュニケーションの場を作るのが困難だったが、全員にまんべんなく発言させたり、画面一か所に集中させたりする点でメリットがあった。自分が苦手だったITを利用した指導をもっとできるようになった。
- 以前より永住家庭の割合が高まっていますが、コロナの影響でそれがさらに進んだように感じます。
- オンライン授業だと、集中力が続かない。単調で、目が行き届かないので、何度も確認が必要。
- オンライン授業のための授業の技術やコンピューターの使い方の技術が上手になった。
- 多くの生徒が対面を希望するものの、性格や補習校までの距離などで、好み（対面かオンラインか）が顕著になった。
- 日本語能力の弱い生徒がオンライン授業中は保護者のサポートを得ることができたことはメリットだった。
- 新任教師です。対面授業になっていろいろ制約や窮屈な規則があるものの、オンラインの時よりも生き生きとしています。生徒数は減ったものの、この困難の中でも残る生徒は、それだけやる気があり、親御さんの熱意も高いことを感じました。
- 子どもが自分で学ぶ力が伸びにくい。保護者が手伝ってしまうから。
- パソコンに向かっている時間が長くなった。
- コロナ禍によりオンライン授業が導入され、デジタル化が進むことを期待したが、対面授業に戻り、またアナログに戻ったものもあり、せっかく整備したメーリングリストなどを使えなくなったのが残念だ。
- 小学部低学年を担当している関係で、オンライン授業中は保護者が児童の横についていることも多く、授業態度に関しての問題は一切なかった。コロナ以前と同様、対面授業時では頭を悩ませる課題の一つであるので。
- 他州に引っ越しした生徒も、引き続き授業に参加できるようになった。
- 我が校はオンライン保育の時間が短いこともあり、特に家庭での日本語環境が整っていないお子さんの日本語力を伸ばすことが困難に感じます。
- コロナ禍の影響でオンラインでの活動が一般化したため、生徒向けに日本とのオンライン講演会を実施することができた。
- 入学式・卒業式・職員会議もオンラインとなり、良かった（日本の家族も入学式や卒業式が見られたため）。
- 授業の質をこれまで以上に検討している。

- 個人的に保護者と連絡を取るようになり、細かい要望が増え、対応に追われることがありました。子どもからの反応が直接感じられなくなり、成績を出すのも困難だったのに対して、親からの圧力は増えたので、やはり一線を引かなければ難しいと思った次第です。
- オンラインは、できる子どもは退屈し、できない子どもは置いてきぼりになる可能性があると感じています。
- 保護者と直接連絡を取るようになり、細かい要望が増えたため、対応に時間を割くことがあった。逆に、子どもたちの反応を感じる機会は減り、成績をつけることが困難だった。
- 子どもたちのIT吸収力が凄まじい。
- 仕事量が圧倒的に増えた。
- おとなしい子も騒がしい子も、同じように発言を促すことができた。また親がその場にいるので、発達障がいがある子どもは親のサポートを授業中に受けられた。
- 話し合い型授業と、作文など個人別サポートがとても難しくなった。
- 検温、コロナ質問票が当番制で必須になり、保護者の負担が少し増えた。
- オンライン授業のため、準備に費やす時間がかなり長くなってしまった。
- Zoomを使用していますが、授業で動画や画像を見せる等、子どもたちにより視覚に訴えた授業はできるようになったかと思いますが、逆に書き取り等の実際に「書く」ことの確認がとても難しくなったように感じました。また、授業についていけない、理解できていなさそうな子も、対面ならばなんとなく察してフォローができましたが、PC越しだとどうしてもそういったフォローが難しいように感じました。
- 保護者とも実際に会って話すのとメールやZoomで話すのでは、伝わり方が違うと思う。難しい面もある。
- Zoom、One Note、Googleドライブが使えるようになった。
- 保護者同士、子ども同士のコミュニケーションが取りづらくなった。
- 年間指導計画をより綿密に立てるようになり、教材や授業準備もより工夫するようになり、いつでもオンラインに移行できる体制を整えて対面授業に臨んでいた。
- やむなく双方向型のオンラインのみやハイブリッド型の授業を行う場合、フィードバックや評価が難しいことを感じた。子どもたちや保護者が対面での授業を心待ちにしており、対面授業の価値を実感した。
- オンライン授業になって、保護者が授業（あるいは授業中の我が子の様子）を監視したり、口を挟んだりするようになった。
- 授業準備時間の増加、提出物へのフィードバックにかかる時間の増加。
- コロナ禍によっての大きな変化は、今まで見えていなかった教師間の問題点が明るみに出てきたことです。（…中略…）ひさしぶりの復帰で、職場での衝撃からいろんな思いが溢れる中でAG5の初任者研修に出席することができたことは本当に良かったです。ネットワークが広がることで国が違っても同じ補習校の教師として一緒に学べるのは嬉しいです。（…後略…）。

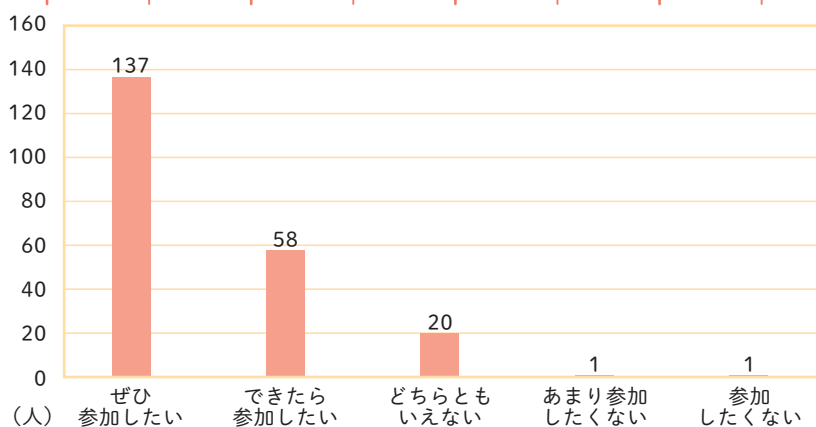
### 3-3 今後の活動への参加と教師自身の変化

#### 問12 | 今後もAG5をはじめとした補習校支援の活動に参加したいと思いますか？

今後もこうした補習授業校支援の活動に参加したいかどうかについては、「ぜひ参加したい」が137名（63.1%）で最も多く、「できれば参加したい」58名（26.7%）と合わせて9割に上った。「どちらともいえない」20名（9.2%）や、「参加したくない」「あまり参加したくない」各1名（各0.5%）と回答した人は、【問7】にあったAG5への参加のしにくさがその要因になっていると考えられ、今後の参加を促すためには工夫が必要である。

#### 問12 | 今後もAG5をはじめとした補習校支援の活動に参加したいか

ぜひ参加したい		できれば参加したい		どちらともいえない		あまり参加したくない		参加したくない		合計
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
137	63.1	58	26.7	20	9.2	1	0.5	1	0.5	217

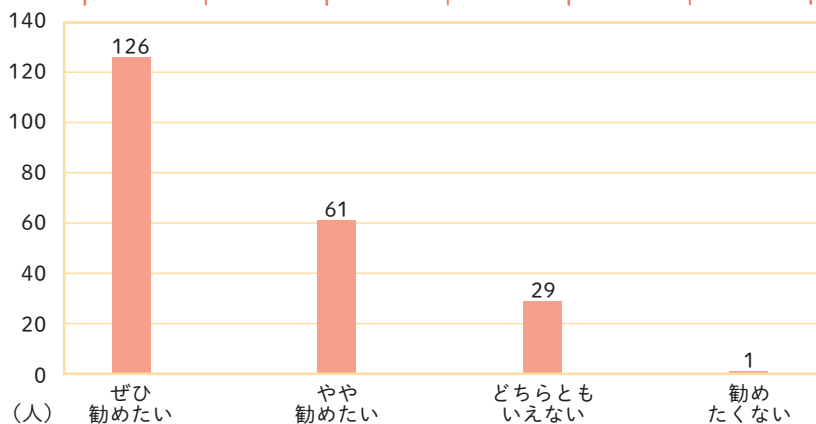


#### 問13 | AG5の今後の活動について、他の人に勧めたいと思いますか？

AG5の今後の活動について、他の人に「ぜひ勧めたい」とした人が最も多く、126名（58.1%）であり、「やや勧めたい」の61名（28.1%）との合計は90%近くに上った。「どちらともいえない」を選んだ29名（13.4%）については、【問7】の回答でみられたAG5参加上の困難を感じている可能性があり、人に勧めることに迷いがあることが考えられる。「勧めたくない」とした人は1名であった。

#### 問13 | AG5の今後の活動について、他の人に勧めたいか

ぜひ勧めたい		やや勧めたい		どちらともいえない		勧めたくない		合計
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
126	58.1	61	28.1	29	13.4	1	0.5	217



問14 | AG5の活動を通じて、補習授業校の教師としてのご自身の変化について、あてはまるものを選んでください。

【問14】では、30項目にわたり、教師としての自身の変化について尋ねた。ここでは詳しい統計的な分析は割愛し、単純集計レベルで結果のみ示す。

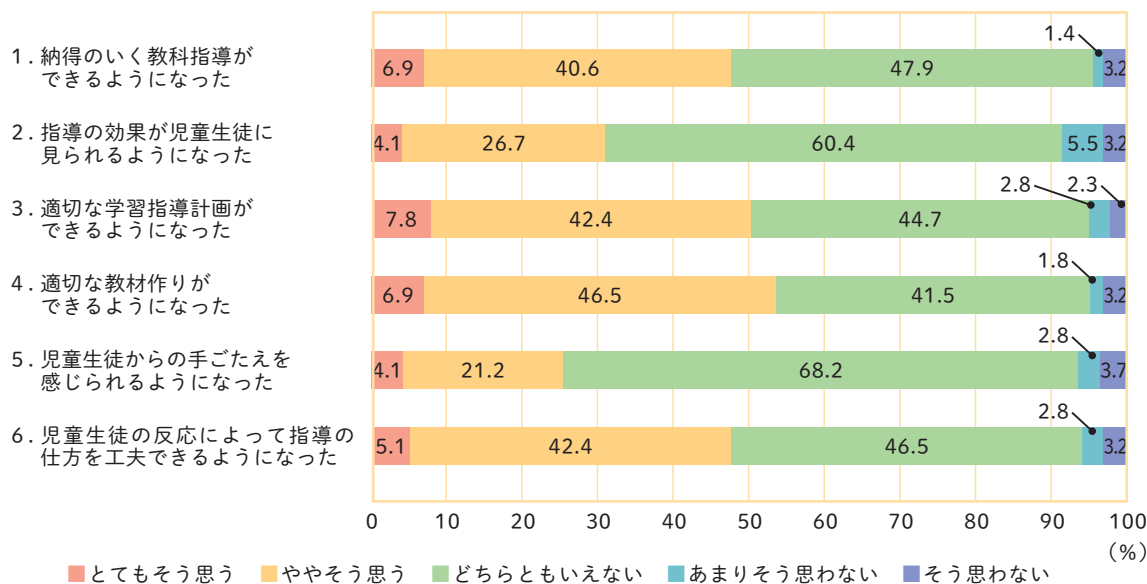
多くの項目で「どちらともいえない」とする回答が最多を占めた。自由記述にて「現在、補助教師を始めて2か月目であり、担任もしていないため、全て「どちらともいえない」で回答させていただきました」「今年度の研修をまだ1度しか受けていないため、回答が曖昧になっております」といった記載も複数みられ、参加して間もない時期の調査であったため、必ずしも正確な自己評価が得られていない可能性がある。

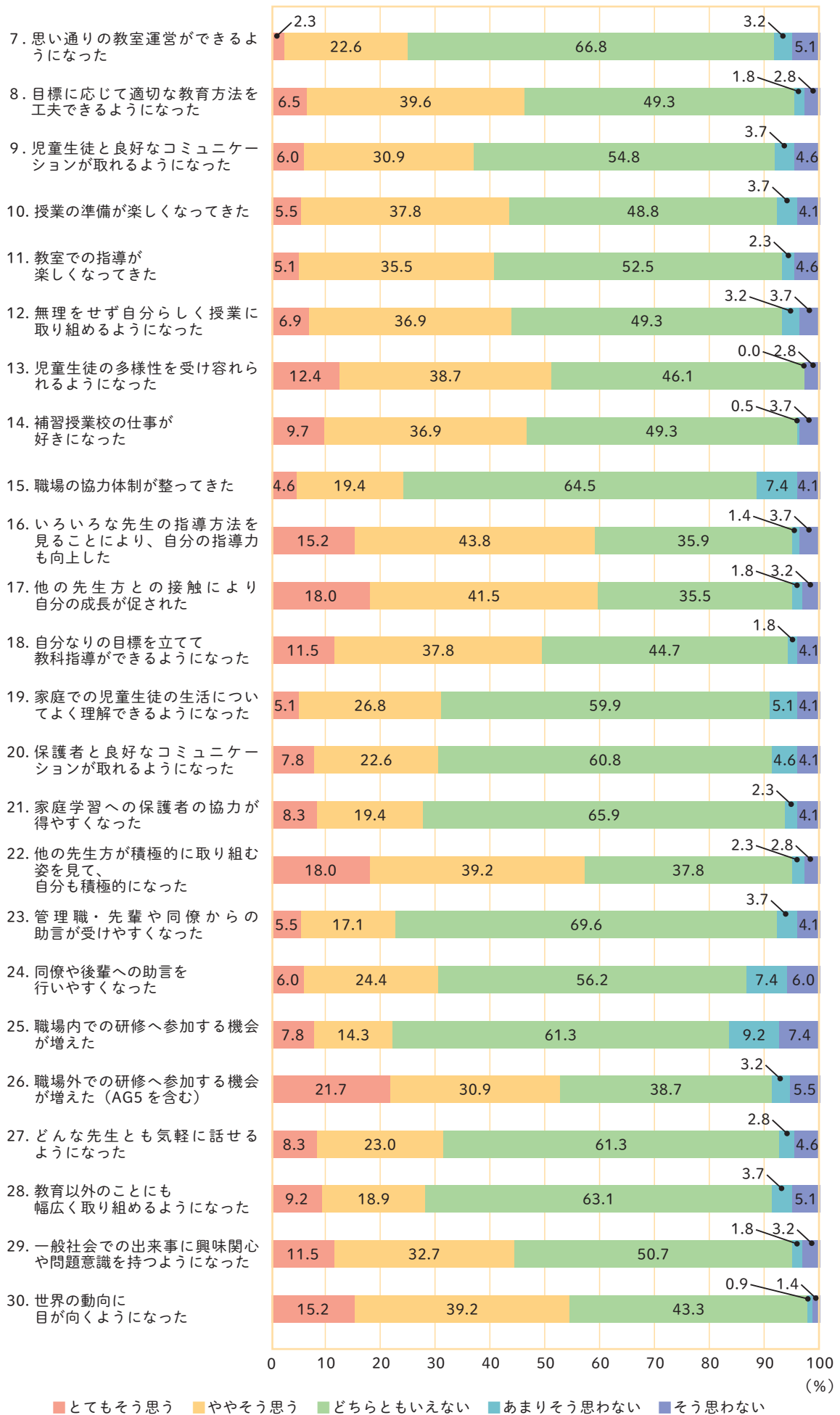
その中で「ややそう思う」が「どちらともいえない」を上回った項目は、「4. 適切な教材作りができるようになってきた」「16. いろいろな先生の指導方法を見ることにより、自分の指導力も向上した」「17. 他の先生方との接触により自分の成長が促された」「22. 他の先生方が積極的に取り組む姿を見て、自分も積極的になった」の4項目で、これらの項目においては「とてもそう思う」と回答した人も多くみられた。研修の成果が自己の成長として自覚されるのは時間を要することであり、経時的変化も追跡調査する必要がある。

問14 | AG5の活動を通じた自身の変化

	とても そう思う		やや そう思う		どちらとも いえない		あまりそう 思わない		そう 思わない		合計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 納得のいく教科指導ができるようになった	15	6.9	88	40.6	104	47.9	3	1.4	7	3.2	217
2. 指導の効果が児童生徒に見られるようになった	9	4.1	58	26.7	131	60.4	12	5.5	7	3.2	217
3. 適切な学習指導計画ができるようになった	17	7.8	92	42.4	97	44.7	6	2.8	5	2.3	217
4. 適切な教材作りができるようになった	15	6.9	101	46.5	90	41.5	4	1.8	7	3.2	217
5. 児童生徒からの手ごたえを感じられるようになった	9	4.1	46	21.2	148	68.2	6	2.8	8	3.7	217
6. 児童生徒の反応によって指導の仕方を工夫できるようになった	11	5.1	92	42.4	101	46.5	6	2.8	7	3.2	217
7. 思い通りの教室運営ができるようになった	5	2.3	49	22.6	145	66.8	7	3.2	11	5.1	217
8. 目標に応じて適切な教育方法を工夫できるようになった	14	6.5	86	39.6	107	49.3	4	1.8	6	2.8	217
9. 児童生徒と良好なコミュニケーションが取れるようになった	13	6.0	67	30.9	119	54.8	8	3.7	10	4.6	217
10. 授業の準備が楽しくなってきた	12	5.5	82	37.8	106	48.8	8	3.7	9	4.1	217
11. 教室での指導が楽しくなってきた	11	5.1	77	35.5	114	52.5	5	2.3	10	4.6	217
12. 無理をせず自分らしく授業に取り組めるようになった	15	6.9	80	36.9	107	49.3	7	3.2	8	3.7	217
13. 児童生徒の多様性を受け容れられるようになった	27	12.4	84	38.7	100	46.1	0	0.0	6	2.8	217
14. 補習授業校の仕事が好きになった	21	9.7	80	36.9	107	49.3	1	0.5	8	3.7	217

	とても そう思う		やや そう思う		どちらとも いえない		あまりそう 思わない		そう 思わない		合計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
15. 職場の協力体制が整ってきた	10	4.6	42	19.4	140	64.5	16	7.4	9	4.1	217
16. いろいろな先生の指導方法を見ることにより、自分の指導力も向上した	33	15.2	95	43.8	78	35.9	3	1.4	8	3.7	217
17. 他の先生方との接触により自分の成長が促された	39	18.0	90	41.5	77	35.5	4	1.8	7	3.2	217
18. 自分なりの目標を立てて教科指導ができるようになった	25	11.5	82	37.8	97	44.7	4	1.8	9	4.1	217
19. 家庭での児童生徒の生活についてよく理解できるようになった	11	5.1	56	26.8	130	59.9	11	5.1	9	4.1	217
20. 保護者と良好なコミュニケーションが取れるようになった	17	7.8	49	22.6	132	60.8	10	4.6	9	4.1	217
21. 家庭学習への保護者の協力が得やすくなった	18	8.3	42	19.4	143	65.9	5	2.3	9	4.1	217
22. 他の先生方が積極的に取り組む姿を見て、自分も積極的になった	39	18.0	85	39.2	82	37.8	5	2.3	6	2.8	217
23. 管理職・先輩や同僚からの助言が受けやすくなった	12	5.5	37	17.1	151	69.6	8	3.7	9	4.1	217
24. 同僚や後輩への助言を行いやすくなった	13	6.0	53	24.4	122	56.2	16	7.4	13	6.0	217
25. 職場内での研修へ参加する機会が増えた	17	7.8	31	14.3	133	61.3	20	9.2	16	7.4	217
26. 職場外での研修へ参加する機会が増えた(AG5を含む)	47	21.7	67	30.9	84	38.7	7	3.2	12	5.5	217
27. どんな先生とも気軽に話せるようになった	18	8.3	60	23.0	133	61.3	6	2.8	10	4.6	217
28. 教育以外のことにも幅広く取り組めるようになった	20	9.2	41	18.9	137	63.1	8	3.7	11	5.1	217
29. 一般社会での出来事に興味関心や問題意識を持つようになった	25	11.5	71	32.7	110	50.7	4	1.8	7	3.2	217
30. 世界の動向に目が向くようになった	33	15.2	85	39.2	94	43.3	2	0.9	3	1.4	217





### 3-4 自由記述

問 15 | AG5 の今後の活動について、改善すべき点、ご感想等、自由にご記入ください。

自由記述への回答では、さまざまな傾聴すべきご意見ご感想、謝辞などをお寄せいただいた。以下、「1. 研修等に参加した感想（研修全体／情報交換会／初任者研修会／学習活動計画・研究授業・合同研究会）」「2. 補習授業校について（現状についての悩み／補習授業校の在り方・課題など）」「3. 今後の活動について（AG5 の継続／具体的な提言・要望）」の3つの大きなカテゴリーに分け、個人情報に抵触しない範囲で原文のまま回答を掲載する。お一人からの回答を複数のカテゴリーに分けて掲載していることがあるので、ご了承いただきたい。なお、AG5 メンバーに対して頂戴した謝辞やご挨拶、本質問紙への回答自体に関するコメントについては内部での共有にとどめ、こちらでは割愛させていただいた。

#### 1. 研修等に参加した感想

##### <研修全体について>

- AG5 に参加して、他の補習校が熱意を持ってオンラインでの活動を前向きに進化させているということを運営委員会で報告でき、卒業式や入学式は当たり前に行えるという意識につながることができました。
- 活動へ参加する前は、教師未経験でしたし、週末の登校だけでは引き継ぎも十分とは感じられず手探りの日々で、時には大きな孤独感さえ感じていました。活動に参加してからは、勇気づけられることも多く、自分が向かっていく方向性もより具体的にになりましたので、随分楽になりました。
- 私のような補習授業校の経験のない派遣校長の研修として、有効だと思います。
- 現場の問題を取り上げて他校と交流し合う場を設けていただき、ありがたく思います。今後も引き続き、このような場を提供いただけることを願っています。
- 今回初めて AG5 のことを知り、研修の情報をもらって参加させていただきました。以前に知っていればもっと他の先生にもお知らせして参加させていただきたかったと思いました。
- オンラインで研修参加できるので大変助かっています。質問に回答いただけるのも大変ありがたいです。
- 昨年度初めて AG5 の存在と活動を知り、参加させていただいてたくさん学ばせていただきました。もっと早く知っていたらと思いました。AG5 へ参加したことによって他校の先生方とのネットワークができ、今まで想像もしていなかった交流が持て、感謝するばかりです。
- AG5 を通して、各国で奮闘されている講師との情報交換ができたことにより、大きな励みにもなりました。是非とも今後も引き続き AG5 を続けていただけることを願っております。
- 大変貴重な資料・時間を共有していただき、感謝申し上げます。
- 連絡や段取りがスムーズで、運営委員の方の受け答えの日本語や気遣いの言葉もとても勉強になりました。

- 各補習校によって規模やカリキュラムが違うので、AG5参加を通して自分の授業に変化があったかと言えば、それは難しいものがあります。でも、世界各国で皆さんが同じような悩みを抱えながら海外子女のために精進していらっしゃる姿は、とても励みになりました。
- 夏休みのため、初任者研修の内容を授業で活用しておらず、自身の変化はまだわかりません。研修内容を生徒や今後の授業に生かせるように取り組んでいきたいと思えます。
- 従来の補習校の授業では同じ学校でも助言を得られることが難しかったのですが、今回のこの活動でどこにいても助言が得られたり、他の先生の授業を見て勉強できるようになったのはとても有益でした。何らかの形で、今後も活動を続けてほしいと思えます。取りまとめくださっている先生方には大変感謝しております。
- 毎回楽しく参加させていただいております。
- 北米組が参加しやすい時間設定をしてくださっていたように感じ、感謝しています（それなのに、なかなか参加できず申し訳ありません）。「補習校」での教育について、基準などがないので、自分だけ、または同学年の先生方との話し合いで授業を計画していて、これでよいのか常に疑問を抱えていました。そのような最中にAG5に参加し、同僚の研究授業や他の学校の取り組みを間近に見ることができ、参考になるとともに良い刺激となりました。まだ私自身の力不足のために児童やその保護者へ還元できていない状態ですので、今後も一層の精進が必要だと感じています。
- パートタイムでの仕事なので、先生間での意識の差が大きく、AG5に誘うのに限界を感じた。
- AG5のスタッフの方々の毎回の研修会に向けての準備やフォローアップなど、感謝しています。
- いつも参考にさせていただいております。今後もよろしくお願いいたします。
- 他の補習校ではどのような問題があり、どのような指導の工夫をしているのかを知りたいへん参考になりました。
- 昨年度初めて参加させていただいてから、研修への参加は限定的でしたが、とても興味深くためになるものでした。
- とても勉強になりました。
- 休校続きで経験を生かすところまでできていませんが、今後ご指導をもとに精進していきたいと思えます。
- 他の補習校の先生方との交流に大変刺激されました。このような場に参加させていただくことができ、感謝しております。
- 発達障害・学習障害について専門家の意見や情報がいただけてとても勉強になりました。補習校で情報を共有させていただきました。
- 自分の指導法を見直す良い機会となりました。世界中の補習校で日々奮闘なさっている先生方がいらっしゃるのことが感じられ、とても励まされています。本当にありがとうございました。



- いつも楽しく参加させていただいております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。
- 指導アイディアや指導方法、また、他の補習校の先生方の取り組みを知ることができる大変貴重な場を設けてくださり、大変感謝しています。ぜひ今後も、研修、情報交換の場を設けていただけることを、切に願っております。
- すでに受けた研修はとても役立ちました。今後の研修が楽しみです。資料やビデオをお送りいただきましたので、校内研修にも役立てたいと思います。残念だったことは、オセアニアの時間帯が午前12時でしたので、実際の配信時間に参加することが困難だったことですが、世界の地域によっては、適切な時間帯になるとと思いますので、難しいことは理解できました。
- コロナ禍で孤立して孤独を感じてしまいがちな時に、AG5の皆さんの活動に関わることができ、一人じゃない、みんなつながっているのだという気持ちになれました。皆さんの存在はとても心強いです。ありがとうございます。
- コロナ自粛最中のころは参加できており、有意義でしたが、ヨーロッパでは通常生活が戻ってきており、平日は仕事、週末は補習校授業、また他国との時差の大きさなどの関係で、参加することが難しくなっていました。残念に感じています。申し訳ありません。
- 素晴らしい活動に参加させていただきありがとうございます。今後も何かの形で続けてください。
- いつも、補習校のためにご尽力いただき、感謝しております。このコロナ禍で、他補習校の状況は、とても意味のある情報となりましたし、励まされました。今後とも、よろしくお願いたします。
- このような貴重な機会を与えていただきありがとうございました。世界中の補習校で働く先生方とつながることができて本当に嬉しく思います。前回のブレイクアートルームも、先生方が積極的に情報共有をしてくださったので励みになりました。
- オンライン研修は時間の融通性もありとてもありがたく思います。これからも、ぜひ機会があるごとに参加できれば嬉しいです。
- とてもありがたく感じています。世界中の補習授業校の先生方とお会いできる機会はオンラインでなければあり得なかったと思います。ありがとうございます。
- いつもご尽力いただき、感謝しています。他校の教師の皆様と交流する場ができて、いろいろなことを学んだり、知識や情報を得ることができて大変助かっています。より生徒に寄り添った補習校を目指して頑張る力や向上心が強くなりました。
- アナログのみの時代から長年補習授業校の教育に教師や管理職として関わってきましたが、AG5の活動がオンラインで行われており、世界の補習校の様子や切磋琢磨して授業を行われている先生方の姿に触れることができ、元気をもらっています。また、授業時間数が限られている補習校での具体的な授業計画や授業研究例など、大変役に立ちます。さまざまなアプローチでのサポートをありがとうございます。
- 補習校以外でAG5の先生方に支えていただいていることに、いつも感謝しております。世界中で教えていらっしゃる皆さんと、仲間の意識を持てるようになったのも、

大きな喜びとなりました。

- 時差の関係でなかなかオンタイムでの参加が難しいですが、その分何度もビデオを視聴させていただいております。今後ともよろしく願いいたします。
- オンライン授業では、宿題の添削や授業準備に膨大な時間が取られますが、時間が許せば、もっと研修会に参加して、勉強したいです。
- オンライン授業などの不安も同志がいることで解消され、指導の工夫を知ることができ、自分自身の学びになりました。さまざまな面からのサポートや提案をありがとうございました。
- とても良い活動をしていただき、大変感謝しております。今後も継続して活動していただけることを切に願っております。
- 私が参加を決めてから送られてきた案内は、参加時間が特定されており、いずれも平日の午前中だったため、本業の勤務時間と重なり参加できませんでした。録画の視聴もできるのであればさせていただきたいのですが、あるのでしょうか。今ひとつ、このアンケートにあるような活動がみえてきておりません。私にとっては、これからです。今後に期待しています。
- オンラインは便利なのですが、あまり集中できなかつたので対面での研修を受けたいと思いました。人数が多く気後れしてあまり意見も出せませんでした。意見を出したときの反応がわかりにくく、自分の意見が伝わったかどうかわからないと不安になったときがありました。研修は勉強になる内容でしたが、集中的に対面で1週間くらい直接指導を受けたいと思いました。

#### <情報交換会について>

- 世界中の補習校の先生方との情報交換会は、とても興味深いことばかりです。これからも楽しいワクワクするような情報交換会を希望します。
- オンライン授業で、諸先生方との交流が叶わない中、AG5の情報交換会や研究授業に参加させていただき、世界中で頑張っている先生方のお姿を知ることができ、たいへん励みになりました。
- 2020年の夏よりAG5の情報交換会に参加するようになり、特に特別支援の生徒に対する扱い、オンライン上での行事について大変参考になりまして、クラスで一人二人は必ずといっていいほどいる特別支援の生徒の進級や、オンラインで離ればなれになっている状態の中、お正月行事をオンラインで実施するなど、当校での成果を挙げることができました。今年は初めて低学年を担当し、中・高学年を9年間指導してきたため、まったくもって心機一転の状態です。
- Zoomを使ったAG5の情報交換会に参加させていただくことができ、他の補習校の様子や先生方の実践方法などを勉強させていただく機会に恵まれ、大変勉強になりました。
- 情報交換会は本当に役に立ちました。
- 情報交換会に参加したことで、オンライン授業でのヒントをたくさん得られ、また世界中の先生方のがんばりに励まされて、ここまでこられたと感謝しています。

- コロナ禍の状況でAG5への活動参加が増えた。それ以前はあまり関わりがなかった。コロナ禍では世界中の補習校の状況を知ることができ、とても有意義な点多々あったが、やはり補習校の規模の違いや、現地で受けるサポートの違い（例：日本企業の有無、商工会の有無）によって話題がかみ合わないことがあったのも事実。実際、対応策を話し合うというよりも、愚痴の言い合いとなっている会もあった。
- ただ、いろんなテーマで情報交換会を立ち上げてくださり、参加不参加を自由に決められるという形態は大変助かった。サイトで、まとめを見ることができるのもありがたいです。
- 6月の初任者研修会の1回目に参加、7月の2回目はビデオを拝見しただけで、その後ほとんど授業がなかったため、研修の成果はまだわかりません。今後の研修も期待しています。
- 参加させていただいた研究会や情報交換会では、他の学校の先生方のお話をお聞きでき、大変勉強になりました。
- AG5委員のご指導とご参加の先生方のお陰様で、幼稚部座談会がいつも幼稚部教師に適したトピックでとても参考になっています。
- 情報交換会ですが、参加されている皆様が大変ベテランの方々ばかりですので、発言することに大変勇気があるなあと感じています。聞きたいことはいろいろあるのですが、教育免許もない、日本や補習校前に特にどこかで教えていたわけではない私としては、この質問が的外れなのではないだろうか、限りある皆さんの情報交換のための貴重な時間を変な質問でつぶしてしまったらどうしようと思うと、なかなか発言できず、結局基本は聞くことに専念するような形になってしまいました。特に「こうしてはどうか」というアイディアがあるわけではないので恐縮ですが、毎回MCの方に「何かご意見ある方は……？」とお声がけいただいてもなかなか声が上げられず、申し訳ない気持ちでいっぱいでしたので、こういった自分の思いをお伝えできる場をいただけたので書かせていただきました。
- 最近では予定が合わず、なかなか情報交換会にも参加できていない身ではありますが、参加した際にはいつもどの先生もいろいろなアイディアを教えてください、大変役に立っておりました。  
一度、(どの学校の先生かお名前は覚えていないのですが)「5になるじゃんけん」をご紹介くださって、それをクラスで試してみたところ大流行しました。生徒の方から「先生、最後の5分は『5になるじゃんけん』したい」と言ってくるくらいには流行し、2、3か月くらいはずっと毎週やっていたと思います。生徒のモチベーションを上げるのにもとても役に立ちましたし、少し他の生徒よりも日本語力が弱く、発言をすることを恥ずかしがっている生徒がいたのですが、その生徒が一番率先してやりたがったので、結果普段の授業の発言量も伸びて大変役に立ちました。
- 参加したのがこの1年ですので、コロナ禍でのオンライン授業についての情報交換会に主に出席させていただきました。

#### <初任者研修会について>

- 今年から新人研修会で参加させていただいています。他の先生方との交流をできれば

もっとしたいのですが、それは過去にあったようです。サイトをもっとよく見るようにします。

- 世界の補習校の様子も知ることができ、これからの我が校の進み方へも参考になりました。
- 先日のグループワークの時、進行役を1人決めておいたらもっとスムーズに進むのかなと思いました。他の先生の授業のアイデアが聞けて、大変参考になりました。
- 2回の研修に関しましては、補習校をご経験の先生のお話でしたので、全く同感と感ずることが多くありました。新人が多かったり、教師の入れ替わりが多いため、今回のPowerPointなどを使用して、適切な校内研修が実施できるものと思います。コロナ禍で、日本からの行き来が中断しているため、教師確保にはこれまで以上に苦しむところで、(中略)とても役立つ研修でした。日本もコロナの収束しない中、このような研修をご提供いただき、心から感謝いたします。
- 日本語補習校で教えて今年で2年目ですが、AG5、特に新任者研修には学ぶことが多く、非常に感謝しております。海外において、日本語が母国語ではない生徒もいる中で、日本語にて中学生・高校生に教えるのは、かなり特殊な経験であり、同じような立場の方々が集まるAG5は、とても貴重で有意義な機会になっています。
- 昨年は2回だけ参加したので、いくつかの新しい情報を得ましたが、その結果指導上大きな変化があったとは言えません。今後は自分の担当している学年の研究授業に参加したいと思います。
- これから教師として頑張っていきたいと思います。よろしく願いいたします。
- 素晴らしい研修の計画と実施、誠にありがとうございます。
- 今年度6月から2回、初任研に参加いたしました。毎回とても楽しみにしています。
- 1時間という研修時間とリモートで参加できるということが、とても助かりました。

#### <学習活動計画、研究授業、合同研究会等について>

- 研究授業がためになりました。いろいろな国でたくさんの先生方がとても心を込めて授業を行い、児童生徒のことを考えているのだということが見えました。AG5をまとめてくださった委員の皆様と各校長先生教頭先生のアドバイス、とてもためになりました。研究授業をしてくださった先生方、ありがとうございました。
- 今から25年くらい前に、都立大の先生が「NYに生活する子弟の日本語教育は、どのようになされているのかについて」視察にいらしたことがありました。今回のAG5夏の研修会は、当時のことも思いおこされ、感慨深いものがありました。今後の会の発展を祈念しております。

## 2. 補習授業校について

### <現状についての悩みなど>

- 生徒と教師の減少、オンライン授業に対する拒否反応、事務局員人員の減少、事務局内でもオンラインミーティングや発言、意見交換の意欲の減少による発言の減少。1人2人のみ意欲がある方だけがミーティングに参加。空回り。悩みます。
- 3年間で補習校の教師の任期が切れたら、ラオスから日本に帰って補習校の先生は辞めるつもりでしたが、今では他国の補習校の先生の募集がないか探すようになりました。しかし残念ながら見つからないですね。
- 私の勤務する補習授業校は、残念ながら、校長先生がいらっしゃらないので、先輩教師のご指導、指示のもと、毎週の授業計画を作成しています。いつも不確かな想い、不安を抱えていましたので、AG5へ参加し、特に講師の先生方のご指導は、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 時間の少ない補習校の授業を、いかに魅力的な授業にするのかがジレンマでした。
- 補習校の現状はなかなか難しいです。教師は、授業時間数しか給料をもらってないからです。宿題のチェック、保護者とのやりとり、研修会への参加などは、ボランティアでやることになります。どこまでボランティアでやるか、できるか、教師の悩むところです。このAG5の活動も、参加すれば意義はあると思いますが、研修費は学校からは出ないのでボランティアです。オンラインだから参加しやすいのですが。
- ひと昔は駐在家庭が多かったようですが、勤務地の補習校は現在国際結婚家庭が多くなり、授業の質や評価の仕方について戸惑うことが多々あります。同僚の先生方や、AG5に参加の先生方からいろいろ学び、今後の授業に生かしていけたらと思います。

### <補習授業校の在り方・課題など>

- 自身の課題でもある長期海外滞在（永住組の生徒を含め）の生徒の日本語力の低下が、世界中の先生方の課題でもあることが良くわかりました。日本での英語教育の推進と同時に、海外での日本語教育、日本の伝統的な文化教育の必要性を痛感しております。現在の補習校は、日本語学校ではなく、駐在員のための海外での塾のような教育校になってしまっているのが、本来の日本語学校としての役割が疎かになっていることが心配です。日本語を上手に話せない、語彙の少ない海外経験のある日本人を増やさないうよう、もっと日本語に力を入れる必要があると感じております。
- 国際化と同時に日本の少子化、人口減が進む中、補習授業校に通い続けた非常に多くの子どもたちが、日本国籍を離脱しなくてはならない現状です。言語や文化を学んだのちに、海外での生活の不便性や将来の職業を考え、国籍を捨てなくてはならない苦渋の選択を強いられている現在。海外子女教育に熱を注いでくださる文科省から、法務省や外務省に二重国籍の認可を働きかけることはできないものかと感じています。
- 今まで、近郊の教会などで研修を続けてきました。時代とともに生徒を取り巻く日本語環境や生徒の日本語力に変化がみられます。その変化に対応しながら一人一人に日本語や国語の力をつけていくことは、やりがいがあると同時に、何を教えるのかの軸が明確でないと効果的な指導をしていくことは難しいと感じています。配付教科書が高学年になるにつれ生徒実態に合わなくなってきます。継承語として日本語を学ぶ子どもたちの「評価」の基準の検討や教科書だけでなく、補習校や日本語学校で学ぶ

生徒の日本語レベルに合った適切な読み物教材「副読本」なども用意できたらと考えています。

確かに、補習校に通ってくる子どもたちが多様化している現在、補習校には楽しく通ってくるだけでよいという視点や大きく日本語レベルの違う子どもたちが同じ教室の授業と一緒に学ぶことでのメリットもあるとは思いますが、私の今までの補習校教育に携わっていろいろな教育方法も試してきた経験から、日本語レベルに大きく差があるクラスにいる子どもたち皆の日本語力を伸ばすのは専門の教師でも難しい。魔法使いにならないとできないような気がしています。そんな大変なことを補習校の教師はやっているということなんですよ。もちろん、家庭は第2の教室、保護者は第2の担任ですから、家庭での協力は必須で、それがないと補習校の授業だけでは無理ですが……。

そして、戦略的なグローバル人材の育成において、国の言うように、果たして、補習校に通っているだけで、金の卵なのか？ 補習校での日本語国語教育がどのようにその子どもの将来やアイデンティティーにつながっていくのかを考えて教育しなければいけないのではないのか？ 高等部あたりで、国際結婚家庭の子女は必ずと言っているほどアイデンティティーの問題に向き合うことになります。そのためには単に楽しく勉強するだけでなくその子なりにしっかり低学年から日本語を身につけるような方法を取ってやるべきではないのか？ 金の卵も磨かないと本当のグローバル人材としての金の卵にはならないと思いますし、また反対に、同じクラスにいるできる子どもたちはどう伸ばしてやるのか？……などたくさんの疑問を抱えながら今まで本当に試行錯誤しながらさまざまな方法を模索し、学校教育運営をしてきましたし、これは現在も試行錯誤し続けている課題です。

また、補習校の運営は原則現地の理事会や運営委員会に全面的に任されており、そこでたとえ運営側による継続的なパワハラなどの問題が起こり、対象者らが最終的に心療内科にかかるような事態になったとしても、そういう面では補習校は全くどの機関にも管理されていないため無法地帯で起こっていることと同様で、補習校の問題として声をあげたり相談したりしに行く場所もよくわからないと言っても過言ではありません。領事館に相談に行ったり文科省に連絡を取ったりしてもなかなかはっきりせず、あまり埒があきませんし、はっきり言ってほとんど対応の方法や解決策が見つからないのが現状です。教育面とは別に、そういう面での補習校独特の問題への対策についても対応を考えていただけると幸いです。

長くなりましたが、AG5の活動に参加することで、少しでも以上のような件の解決策も見えてくると良いなと思っております。

- 私が住んでいるところは現地校の教育システムや教育レベルがあまり高くない国なので、現地校の勉強を学校以外でも（各家庭で）しっかりやらせないといけない状況です。このような中で子どもたち自身にとって第2、もしくは第3外国語になっている日本語にどの程度のレベルを期待すべきなのか、教科書を使った国語教育にどの程度意味があるか、正直なところ疑問に思っています。日本人である親の『自分が将来年老いた時に自分の言葉で子どもと意思の疎通をしたい』とか、『日本のおじいちゃんおばあちゃんと日本語で話せるようにして、自分が子どもとして親孝行したい』のような、子ども自身のためよりも、親のエゴのため、無理矢理勉強をさせるようなことになっているように思います。

- 我が校は日本語補習授業校という形になって文科省からの助成金を受けている関係で、国語の教科書を使わなければならないことになっていますが、我々のような学校の海外に生まれ住んでいるけれども日本にルーツがあるという子どもたち用には、日本を誇りに思えるようなテーマの教材・単元などが織り込まれたものがあつたらいいのと常々思っています。世界に誇れる日本の技術、世界で活躍する人々（中村哲さんのような、海外の人々に貢献している人）、日本ならではの美しくすばらしい伝統文化など。国語の教科書にあるものは味気ないものが多すぎるし、海外の作家のお話や大した内容のない説明文などをわざわざ何週間もかけて学ばせるのはもったいないです。AG5の活動範囲に関係のない内容だったかもしれませんが、こういう悩みや思いをどこにぶつければいいのかわからないので、いろいろな意見を収集しておられるAG5へ書かせていただきました。

### 3. 今後の活動について

#### < AG5の継続について >

- どのようなかたちであっても、現地採用教師が自主的に参加できるプラットフォームであり続けてください。
- 可能であれば、今後もAG5研修や情報交換会を継続していただきたいと思っています。
- AG5で得られる情報や知識は、補習校の教師には大きな糧となると思いますので、今後も長く続けていただけることを願っております。
- 今年でこのプログラムが終了とのことですが、このようなサポートが期間限定でないことを強く望みます。
- 今後も楽しみにしています。
- 来年度も継続してほしい。
- 来年度以降も、情報交換会を含む活動を、是非とも企画実施していただきたいです。
- 今後もこのような活動に参加させていただけることを願っております。
- 最終年度とのことですが、ぜひ今後も続けていってほしいです。
- 今後もオンラインによる研修の機会の提供を継続していただけることを願っております。
- さまざまご苦労があるかと思いますが、来年以降も、AG5が何らかの形で存続されることを願っております。返す返すになります。AG5の活動に参加させていただき、心より感謝しております。
- AG5の活動が今年いっぱいと同いでしたが、続けていただきたいです。
- いつも勉強させていただく機会をつくっていただき、大変感謝しております。今後も今までのような情報交換会、授業研究会など、オンラインで気軽に参加できればと希望します。
- 質問ですが、このサイトは今後も残していただけますか。今後も利用させていただきたいです。
- 教材や研修などは大変役に立っています。今後もぜひ続けていってほしいです。

### <具体的な提言・要望>

- Facebook もいいのですが、私自身がもともとあまり利用しないせいか、使いこなせておりません。個人的には、派遣校長不在の中小規模の補習校講師の質問や相談に乗っていただけたり、参考にできるような他校の実践・アイデアを共有できるようなオンラインによるシステムを構築していただけると、非常に心強いと思っております。これは、20年近く現在の補習校に勤務してきた私の念願でもあります。何卒よろしくお願いいたします。
- 今後、クラウド活用化、校務支援システム活用について情報が得られると、役立つと思う。
- 専門的な内容、例えば「ADHDの児童生徒への対応」などでは、その道に詳しい人を確実に確保するようにしないと、ただ悩みを持った先生が集まって、お互いを慰め合うだけになってしまうと思う。
- Facebookだと、気軽に質問したり交流したりしにくいと思っているのは私だけでしょうか。
- 中高での活動や学習などの勉強会や研修を増やしてほしいです。
- 教師の交流だけでなく、生徒の交流の機会をつくってほしい。
- AG5を通じた管理職や国外のサポーターとのネットワークが構築できると良いと思います。
- 学年ごとの情報交換会なども役立ちそうに思います。
- 他の先生方の授業実践を見る機会をたくさんつくっていただきたいです。
- 情報交換会でのフリートークのグループをつくる際には、できれば規模が同じくらいの学校の方と組ませていただくと、より互いの必要な情報を得られるのではと思う。規模が違うと、現状、課題も変わり、それに伴って改善策も大きく異なる。今まで参加したグループでは、悩み相談をしても規模の違いからなかなか欲しい情報交換ができず、言っぱなしという感じが多かったように思う。もし可能ならば、テーマによっては役職や学年、教科などをそろえてグループトークをすると、より先生方が今欲しい情報共有、交換ができるように思う。
- 最後の情報交換のミーティング時間を長く持つことができれば、もっとありがたいです。
- 講義形式でなく、ワークショップ、グループ形式だと、モチベーションが維持されるように思います。
- コロナ禍の結果、世界中の補習校講師とオンライン上でつながれるようになりました。これを機に、「AG5小1講師グループ」「AG5中学部講師グループ」などの学年別グループを立ち上げてはいかがでしょうか。小さい規模の補習校では、各学年の担任講師は1名しかいないため、孤軍奮闘している講師が大勢います。同じ学年を担当する世界中の講師とサポートネットワークのような体制をつくることができれば、特定の単位に関する相談や情報交換などもでき、講師にとっては一番メリットが大きいように感じます。  
今年のご活動を締め括る前に、ぜひ一度ご検討いただきたく、よろしくお願いいたします。



- コロナ禍によりウェビナーが可能となり全世界がつながれる今、日本の素晴らしい先生方の実践型授業をもっともっと見学させていただきたいです。論理的な教育論も大切ですが、やはりいい先生方の質のいい授業を、教職免許を持たずとも先生として頑張っている海外の補習校の先生方に見せていただき、教え方のコツなどを教えていただけたら、とても勉強になるのではないかと思います。
- AG5の活動は主に小中学部対象ですが、幼児部についてもいろいろ計画していただけるといいなと感じました。
- もう少し少人数で交流できるといいなと思います。
- これまでに数回の交流会や講習会に参加させていただいて感じたのは、同じ学年を担当する講師との交流の場が欲しい、ということでした。「オンライン授業計画の立て方」のように、一見全員が興味のあるような議題でも、小学部低学年担当講師と中学部講師では、ニーズが全く異なります。
- 『継承語』としての日本語を教えるというテーマで意見交換があったら嬉しいです。我が校のほとんどの生徒、現地人とのハーフの子どもたちが、将来9割以上日本へ移住することはない現状で、日本に生まれ育った児童と同じ国語の教科書を使った日本語教育に疑問を感じているので、本当に彼らに必要な日本語教育とは何か、何を本当に教えるべきなのか悩んでいます。
- 私自身は補習校で長年勤めてきて、自分がこれまで試してきた教材づくりのヒントを共有させてもらえる場があると良いなと思っています。具体的には「たぬきの糸車」の指導で、簡単に手に入るコットンから「糸をつむぐ」ことを「体験」させたり、小1で習得する漢字80文字を並べて作った「おどるポンポコリン」の歌の替え歌（子どもたちが歌えるようにカラオケ音楽もスローに。ただ「ちびまる子ちゃん」を知っている子が少なくなっているの、これからは難しいかも？）や漢字かるた、「くちばし」「うみのかくれんぼ」や「どうぶつの赤ちゃん」の授業で子どもたちに見せているYouTubeの動画サイト、小1算数では日本で使用する「さんすうらんど」等の教材を一人一人買わせていないことから、子どもたちに使わせている「卵ケース」やブロック、授業で使っている手作りのスライド教材など。特に小1担当になった先生方は毎週試行錯誤されていると思うので、「指導計画」などの改まったものではなく、補習校での授業ですぐ使えるちょっとしたヒントを、AG5のホームページで交流できたら良いと思いました。
- HPの形が少しわかりづらく感じています。何度か学習指導のアイデアのようなものを参考にしたりアクセスしたのですが、どうやってもたどりつけませんでした。私の情報収集能力の問題だとは思いますが、もう少しわかりやすいとありがたいなと思いました。

以上

(質問紙調査報告 担当：岡村 郁子)

### Ⅲ．インタビュー調査による効果検証

#### 1 / インタビュー調査の方法

質問紙調査で得た AG5 の成果の詳細を明らかにするために、2021 年 8 月から 9 月に、Zoom を利用してインタビュー調査を実施した。対象は、AG5 に積極的に参加していたアメリカ合衆国の補習授業校（文部科学省の認可を受けていない教育機関を含む）4 校（仮称 A、B、C、D）の教師である。AG5 実施当時の管理職に依頼し、調査協力の承認を得た。調査協力者は、管理職、中堅、初任者の教師各 4 名、計 12 名である（表参照）。中堅・初任者の教師は、AG5 に複数回参加して調査者と知己になった者の他に、管理職から紹介された者を含む。

各人 70 分から 150 分の半構造化面接を行った。主な質問項目は、以下のとおりである。

- ①現在のご所属、職務（担当学年、担当教科など）
- ②教員免許の有無、教師等経験、補習授業校講師経験年数
- ③AG5 に関わったきっかけ・動機
- ④AG5 での実践：参加した活動とその内容（例 初任者研修、授業研究会、情報交換会）
- ⑤AG5 での成果・課題：ご自身・同僚・児童生徒の変化、達成感、困難、その背景
- ⑥今後に向けて：補習授業校教師として何を目指したいか、児童生徒への期待・願いなど

AG5 運営指導委員である渋谷、岡村、近田のうち 2 名（1 回のみ 1 名）が聞き取りを行い、許可を得て録音した。全文を文字起こしした後に、MAXQDA2020 を用いて分析した。

表 インタビュー調査協力者一覧

職種	番号	補習授業校
管理職	1	C
管理職	2	A
管理職	3	B
管理職	4	D
中 堅	1	A
中 堅	2	A
中 堅	3	B
中 堅	4	A
初任者	1	A
初任者	2	A
初任者	3	D
初任者	4	B

## 2 / インタビュー調査の結果

### 2-1 初任者教師からみた AG5 の成果

補習授業校では、教員免許を持たないものが教壇に立っていることが珍しくない。調査に協力した初任者教師のうち、教員免許を持つ者は2名だが、日本の学校での教職経験がある者はいなかった。語学教室やスポーツインストラクターとしての経験がある者はいた。

#### 2-1-1 初任者研修会

調査協力者は全員、初任者研修会に参加し、それが効果的であったと言及した。

すごく勉強になりました。いつも楽しくて。(中略) 本当に全部勉強になりました。(初任者2)

初任者研修が一番記憶にあります。(中略) 全部参加したと思います。(初任者3)

すぐに生かせるようなヒントがいただけました。(初任者4)

具体的に効果があった点としては、まず、補習授業校の基本的事項に関する講義が挙げられた。補習授業校では、そもそも基本的研修の機会すら徹底しておらず、他校の様子を知ることも少ない現状では、初任者に限らず有効であるという意見があった。

最初のほうに、「補習校とは」という大まかな概念を教えてくださいました。自分が考えていたのと同じなところもあれば違うところもあったんですけども、それがあったことですごく役に立って、あってすごく良かったなと思いました。この研修は別に、初任者に限らなくてもいいのかなとは個人的に思いました。(中略) きっと他のベテランの先生でも、自分の補習校はこうだけれども他の補習校とかあまり見られてないと思います。あんまりそういった「補習校とは」というのを実際に聞くことは今までなかったので。私の学校は、特に日本から来た校長先生とかはいらっしゃらないので、それをあらためて聞くことができ、「ああそういう立ち位置なんだ」ということがわかったので、別に初任者じゃなくても、どの先生でもすごく参考になるとは思います。(初任者3)

また、キャリアのある教師からの教育方法に関する講義も、効果的な点として挙げられた。

(自分が小学校で教わった25年ほど前からは) かなり変わったんだなって印象がありました。いわゆるアクティブラーニングが増えたのかなという印象は受けました。(初任者1)

ラーニングピラミッドや、いろいろな研究に基づいてるものをシェアしていただいて、すごく勉強になりました。(中略) (講義が) データに基づいてるので、すごいパワフルですよ。(初任者2)

PowerPoint を使ってお話を聞いて、PowerPoint でいろいろチャートや図でまとめられていたりするじゃないですか。視覚的にもそれを見ることで、お話が一番わかりやすかったです。(初任者4)

初任者研修で得た知識は、その後の授業実践でも活用しているとのことだった。

ラーニングピラミッドを思い出したり。あとは生徒たちの心を引き付けるんだっていう、Y先生の言葉を思い出して、途中にスライドにクイズを入れたりして、マンネリ化しないように原点に立ち返っています。(初任者2)

研修中に講師が教え方をデモンストレーションしたことが効果的だったという声は、複数あった。

X先生の体を使ったラーニングで、やっぱり体動かすことって大事だなと、本当に思われました。(初任者2)

X先生が実際にホワイトボードを使いながらやっているのを見て、「わあ、こんなのできない」って。素晴らし過ぎてびっくりしたんです。(中略)それがすごく印象に残っています。(初任者3)

さらに、研修の冒頭で、地域や学校規模のちがうさまざまな補習授業校が学校紹介をしたことにより、いろいろな取り組みや可能性が知れたことがよかったという声もあった。

他の国の実態を聞くと、もっとフレキシブルでいいんだなと思いました。(中略)保護者も交えてイベントづくり、日本の文化を知ってもらうという。七夕の回とかいろいろ写真などがあったりして、すごくいいなと。もちろん子どもを中心に、文化を伝えることがメインに見えたんですけど、そういうのいいなと思って。(初任者2)

初任者研修会では、Zoomのブレイクアウト機能を使って他校の教師と話し合う機会を設けたが、それが有効であったので、もっとそうした活動を行ってほしいという声もあった。

(他の学校の方々とブレイクアウトルームでお話しする機会が)もっと欲しいです。(中略)もちろん何か今回はこのことについて話しましょうというテーマを絞っていただいて、他の先生たちとディスカッションする機会があったら、多分いいと思います。(初任者3)

初任者研修への参加は勤務とは見なされなかった補習授業校もあったが、時間や労力の制約はある中でも、もっと研修を受けたかったという声もあった。

(初任者研修会は)平日だったので、私は今は平日は仕事してないので参加することができたんですけど、子どもがいたので、片耳子ども見ながらこっちで聞くという感じでした。それは時差の問題なので、どこでもそれは問題だと思うんですけど。時間は1時間半ぐらいあっても全然聞けます。もっと聞きたい、もう終わりかって、本当に思っていました。(初任者3)

## 2-1-2 公開授業

初任者1は教員免許はなかったが、補習授業校に着任1年目で志願して、自らが授業を公開している。その経験を、次のように語っている。

少し不安というか、そんなことができるんだろうかと思いながら始めました。(中略) 初任者研修でかなり指導していただいたので、そういう面ではかなり勇気が湧いたんですけども、それでも手探りな状態でした。

このように、不安を抱えたスタートではあったが、負担が増えたという思いはなく、「初任者研修で教わったことを早速、使ってみようという感じだった」と語った。本来は「とてもシャイ」で、公開授業では「本当に胃が痛かった」が、「それで鍛えられた」と言う。公開授業の準備をする過程で、「私の普段の授業が、そこまでしっかり練れてないのだなということ、痛感した」とも言う。

多くの労力を割いてやり終えた公開授業は好評で、事後の検討会でも肯定的な評価が多くあった。初任者1は、「振り返りも、皆さんに温かい声をいただきまして、かなりほっとしました」と充実感を語っている。

公開授業やその前後の検討会は、授業を公開した者だけではなく、参観した初任者にとっても、効果は大きかった。

素晴らしいなって。問題作りも、授業づくりというか、形も素晴らしいなと思って、すごく勉強になりました。(初任者2)

あれ（Zoomで児童と作者が話し合った授業）は、本当に私にとって新鮮でした。作者を呼ぶって、なかなかないですね。私にとっては目からうろこというか、子どもたちが実際にこうやって作者の方と直に感想を言って、お話を聞けてっていうのは、すごくうらやましかったです。私が小学生だったら絶対楽しい、うれしいと思いますし。(中略) いつもとは違う授業を持ってくると、子どもたちのモチベーションがさらに上がるし、楽しい授業、やりたい、楽しいって思える授業になるんじゃないのかなと思います。(初任者4)

私が実際に担当する学年ではないこともあったんですけども、例えば生活科とか教科横断して実施するとか、学年を超えて交流するとか、単元、学年は違っても自分の授業に生かせることがたくさん見えてきました。例えば、算数においても日本語と英語、日本語力と英語力の差がある場合は、どちらの言葉も使ってカバーしていくとか。算数でも関数って何という子に、関数っていう日本語はわからなくてもファンクションっていう英語を使ったら、なるほど、それが関数かと理解したり。そういった、ちょっとしたアドバイスを、いろいろな研究会から学びました。(初任者4)

公開授業で学んだ成果は、その後の授業でも生かされているという。

(検討会では)日本語力が低い子でも学力はあるので、授業では発言できなくても頭の中や心の中ではいっぱい意見が詰まっている子もいるはずだからっていうことでした。

確かA補習授業校が地域紹介などをやる活動をしていましたよと伺ったので、私もそれを参考にさせていただきました。(初任者3)

他の教師の授業を見る機会は、今後もぜひ欲しいという声があった。

本当にいろんな授業を見たい。今でもいくつでも見たいので、Zoomという形で、他の学校に行かなくても家から見られるようにしていただいて、本当にありがたかったです。(初任者3)

## 2-2 中堅教師からみた AG5 の成果

調査に協力した中堅教師4人は全員が教員免許を持ち、日本での教職経験もあった。ただし、補習授業校で教えている校種や教科の免許を持っているとは限らない。補習授業校での教師経験は、30年を越す者もいた。この4人は、AG5事業のコーディネーターや初任者研修での講師、授業の公開などを積極的に担っていた。

### 2-2-1 A補習授業校での研修会と公開授業

AG5の初期、新型コロナウイルス感染拡大の前には、A補習授業校において、日本からAG5の教師や研究者が講師として参加して、対面型の研修会が複数回行われた。日本でも最先端のICTを使った授業のアイデアや、日本国内で外国ルーツの児童を指導している教師のアイデアに、多くの学びがあったと語られた。

L先生やM先生が、職員室でデジタル教科書の使い方とか、あとは、ジグソー法を私たちに1時間半くらい講義してくださったんですよ。それがあってU先生の授業に行っただけですけども。まず、その講義をしてくださったときに、自分がまるで知らなかった世界だったので、非常に感銘を受けたんですね。(中堅2)

N先生は、外国から来たばかりで日本語がほとんど話せないというお子さんを、取り出しで見てくださってる先生でした。日本語が苦手なお子さんに対する配慮がものすごく細かくて具体的で、そのやり方もいろんな手を持っていてくださって。それがたくさん入っていたので、すごく楽しかったです。(中堅4)

日本国内で外国ルーツの児童を対象とした教育方法は、補習授業校でも有効であると語られた。

クラスには何人か、作文は一切書かないっていう、宿題に作文を出すと一切書けてこないっていう子がいたんですね。そういう子たちも、「ひな形がある作文」を使うときちゃんと書いて出ただけじゃなくて、それを自分でグラフや表を見せながら、友達に対して発表しなきゃいけないんですけど、それも1対1のペアの発表を組み替えて、何回もこなすっていう形にしたので、すごく楽しんでいて。やっぱり1回目よりも2回目のほうが上手にできたっていう実感が子どもにもあるので、子どもたちも自信を持って、楽しそうに取り組んでいました。(中堅4)

## 2-2-2 公開授業

A補習授業校では、上述の研修会に続いて、AG5の教師の指導の下に、公開授業が行われた。中堅教師からは、その効果が複数語られた。補習授業校では他者の授業を見る機会が限定的なので、貴重な機会だと捉えられていた。

(A補習授業校での研修会では)感動と、あとは、若干の戸惑いがありました。ジグソー法をやっているときに、今自分が何をしているのかなとか、ああ、こういうふうになるんだとか、子どもはこれで本当に動けるのかなとか。デジタル教科書っていうのを初めて見せていただいて、新しいことを知った感動もありましたが、ちょっと戸惑いもありまして。そんな気持ちを持ちながら、U先生の授業を全部見せていただいたときに、子どもたちが見事にU先生の指示で動いてやっていたので、なるほど。(中略)頭の中で描いていたものや、紙の上で見ていたものが立体化してきたというのか。こういうふうにしていくんだって。今でこそ普通にできるようになりましたけれども、何かを隣の人と相談して、次に4名で相談して、次にみんなであって、あのステップでさえ、私には新鮮でした。それまでは、「はい、考えて。わかる人」とかいう流れでやっていたから。(中堅2)

U先生もよく細かいところも質問してらっしゃいましたけど、「ここ、こういうときはどうしたらいいんですか」とか、「ここはどういうことなんですか」とか、本当に小さな質問でもみんな答えてくださって、わからないことは何でも教えてもらえるっていう雰囲気があったので、「わー、いいな、いいな、やりたいな」という気持ちになれました。(中堅4)

A補習授業校以外から参加した中堅教師にとっても、A補習授業校の公開授業から多くの学びがあったと語られていた。

A補習授業校の先生の公開授業に私も参加させていただいたんですけど、すごく勉強になりました。(中堅3)

AG5の中期以降は、A補習授業校以外でも公開授業が行われた。中堅教師は、そこでもさまざまな学びを得ていた。さらに、調査協力者の中堅教師らは、積極的に自身の授業を公開していた。コロナ禍によるオンライン化など難しい局面もあったが、多くの工夫を凝らした授業が中堅教師らによって公開され、学び合いが行われていた。

(教科書の文章を)簡単に訳したものを渡すという先生がいらっちゃって、そういうことができるんだなと思って。例えば、『教材名』も、簡単に書いたものを渡したりしないんですかという質問がきたりとか。そういったこともしてる先生がいるんだなと思いました。(中略)書き直して、子どもたちに渡すということをされてる先生がいらっちゃったみたいで、そこまでやってるんだと。(中堅3)

説明文を学習して、(中略)子どもたちが見つけて、調べて説明するっていう学習が続いているんですが、これもその前の年に教えていただいた紙芝居型本文、教材文を段落ごとに1枚の紙に(聞き取り不可)んですけど、上半分に写真ですとか挿絵ですとか、

3年生のグラフが入って、その下に説明文、その段落1個分の説明が入っているものなんです。それを使って音読をさせることで、説明文の指導の時間を短縮し、理解を深めるために、紙芝居型の上と下を切り離して、それをマッチさせて、というゲームを入れたりして、説明文の学習は進めました。(中堅4)

### 2-2-3 初任者研修会

中堅教師らは、初任者研修会が初任者にとって有効であると語っていた。

時間的に難しい先生とかもいらっちゃったとは思いますが、でもやっぱり全く教職経験のない先生方もいっぱいいらっしゃるんで、そういった先生方にとっては、指導案の作り方などがすごく勉強になったと思います。(中堅3)

中堅教師2はAG5のコーディネーターとして、初任者らの研修参加を促す役割を担っていた。

昨年度は、A補習授業校のAG5事務局会議を、校長先生、副校長先生(今年は教頭先生に代わりました)、事務局長のZさんと4人でやったんですが、初任の先生方に、教室で授業ができない分、研修の場も設けにくいので、ぜひAG5のこの機会に勉強していただきましょうと話合って、学校から、「何々先生方、3年未満の先生は出てください」というリストを作ってお願いしました。今年は、去年の先生方の中で、また希望者の方っていうふう募ったんですよ。(中堅2)

初任者研修は、日本での教師経験がある中堅教師にとっても効果的だったという声もあった。補習授業校では、他の教師の実践を見たり情報交換をしたりする機会が限られており、「他の先生の悩みを聞いたりとか、他の先生がされている実践を聞いたりとか、それがすごく良かった」(中堅3)とのことだった。

すごく勉強になって、良かったです。あと何が良かったかって、自分でB校でやってるときは周りがあんまり見えないんです。他の学校との交流もなくて。日本の中学校にいたときは研究授業とか、同じ町の中で英語の先生の会があったりとか、横のつながりっていうのがあったんですけども、そういうのが今の職場では、同僚とだけで。それが、世界各国で頑張っていらっしゃる先生方とつながれたっていうのが、やっぱり一番すごく刺激になって。(中堅3)

さらに、中堅教師2は、2年間にわたって、初任者研修の講師を務めた。2年とも内容を変えたり、研修内でデモンストレーションをしたりして、中堅教師2の研修は初任者から好評であった。

あのとき(前年の初任者研修会)に聞いていただいて、よかったって言ってくださった先生方は、また違うものを期待されていますよね、去年のじゃなくて。去年の内容は、動画が残っているので、あのままアップしていただいても構わないですし、せっかくや



るんだったら、また何かあれとは違うもので40分がいのかなって、自分では思っているんですね。(中堅2)

初任者研修会では話し合いの機会を増やすなどして、もっと時間を長くした方がよいという意見もあった。

講演を聴くのもすごく勉強になると思うので、バランス的にもうちょっと話し合いがあったほうがよかったと思います。1時間ですよ、確か。もうちょっと長く話せたらと思うけど、でもまあ、それぐらいがいいのかもしれないですよ。もうちょっと話したい、くらいで終わる。(中堅3)

## 2-2-4 AG5の課題

このように、AG5の効果が中堅教師から指摘されていたが、すべての教師が同意しているわけでもないことも指摘された。補習授業校の労働条件からして、研修を義務づけることは困難なことが指摘された。

今でもそうですけれども、(全員が)同じだけの熱量を持って、指導力を上げたいと思って取り組むというのは、年数を重ねれば重ねるほど、ちょっと難しいなと感じています。なぜならば、私はこの仕事を中心なので、自分もやりたくてやっていますが、この土曜日の仕事はサブ的なもので、もともとの本職じゃない先生にとっては、指導力を上げるために勉強しなきゃとかと欲求がなかったり、日本の先生方とちょっと事情が違いますよね。だから、そここのところの温度差っていうのは、なかなか埋めがたい。これだけA補習授業校でやってきても、正直なところ、全部の先生がというのはやっぱり難しいと思っています。(中堅2)

加わえて、高度な教育技術を求めるよりは、シンプルでありながらも学習者主体の活動ができるアイデアが望ましいと語られていた。

新しい手法を、完全に自分のものにして、子どもたちをうまく輝いて動いてもらうようにするというこまでは、私自身も、(もちろん、最初、知らなかったからなんですけれども)努力をした部分があります。でも、これと同じだけを(何をするかにもよると思うんですが)同じだけ他の先生方がやらなければってなったら、例えば、あまりにも凝った活動案だったりすると、見た瞬間に無理とか、できないとか、「あの先生はできるけど私はできない」というふうになるかなと思うので、授業活動案は、やっぱりシンプルでわかりやすく、でも、子どもたちの活動量が増えるものがないのかなと思っています。(中堅2)

全部やらなきゃいけないっていうことに、非常にとられるという悩みをよく聞きます。それをこなさなきゃいけないというのが、どうしたらいいのかなって。「どこから、単元をどこか切ってもいいって言ってもらえたら、楽なんだけどな」というような発言を聞くこともあるんです。(中堅2)

補習授業校は授業日数が短く、こなすべき課題がそもそも山積しているため、教材を精選して取り組む術を伝えていくことが、今後求められていると考えられる。

## 2-3 管理職からみた AG5 の成果

調査に協力した管理職の中には、文部科学省から派遣された教師が1名と、それ以外の教師が3名いた。前者は日本での教師歴が長いが、後者はそうでない場合もあった。

### 2-3-1 AG5 の効果

補習授業校ではそもそも、教員免許や教師歴がある者を採用すること自体が難しい。また、限られた勤務時間や予算の中で、研修を行うことも困難である。そのため、管理職にとっては、初任者研修は有効な機会ととらえられていた。

初任の方の一番の問題は、自分が受けた教育しか知らないってということなんです。自分が小中で受けた教育、小中高でされた教育をしちゃうんですよね。だから今の、例えば20代とか30代の方は、十何年前の教育がすべてなんです。だからそこが難しいところですよ。教員免許を持っていないと、教育実習もしていませんしね。でも、そういう人も採用しないと無理ですし。(管理職2)

補習授業校独自で初任者研修をしている場合もあったが、日本の教師や研究者によってオンラインで研修が行われれば有効であるとの意見が複数あった。また、補習授業校の管理職の指示だけでは浸透しないこともあるので、その点でも日本からの支援があればありがたいという意見もあった。

### 2-3-2 AG5 の継承

調査に協力した管理職らは、AG5 の効果を認めつつも、それを継承していく難しさも指摘していた。補習授業校の教師の多くは他に職業を持ち、週末のみ補習授業校で働いているので、無給で研修等に参加してもらうことは難しいという点が、複数の管理職によって語られていた。

今回は AG5 のお金もあったので、そんな十分ではないけれど、それなりにお金をかけてやれたわけだけでも。今後こういう取り組みの輪を広げていく場合については、そこら辺は割り切っていくといけない部分、お互いに自分のためにという意識でやっていくということになるのでね。それはそれで仕方のないことなのかなとは思いますがね。だから割り切らないといけないっていう部分はあると思います。(管理職2)

今後、AG5 の成果をどのように継承していくのか、緻密な計画が求められる。

以上

(インタビュー調査報告：渋谷 真樹)

## 【謝辞】

このたびの調査にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。質問紙の自由記述にお寄せいただいた多くの温かいお言葉につきましても、補習校チーム一同、嬉しく拝読いたしました。重ねて御礼申し上げます。

AG5は2021年度をもって終了いたしますが、これからも別の形で、引き続き先生方のお手伝いできればと考えております。このたび頂戴しました数々の貴重なご意見を活かして、今後の活動につなげて参ります。補習授業校で学ぶ子どもたちの輝く笑顔のために、AG5の活動で蒔いた種を皆様が大きく育てて、世界中にネットワークを広げていただければ嬉しく存じます。皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

I・II 執筆担当 岡村 郁子

III 執筆担当 渋谷 真樹

## 【稿末資料】 質問紙全文

AG5 研修ご参加の先生方への調査ご協力お願い

AG5 による各種研修へのご参加、誠にありがとうございました。補習校チームでは最終年度を迎えて成果検証を行いたく、以下の調査にご協力をお願い致します。ご回答〆切は8月29日です。また、お一人一回のみご回答ください。どうぞよろしくお願い致します。

調査協力への協力にご同意いただける方は、以下「同意します」にチェックをお願いいたします。調査結果は個人が特定されない形で集計し、AG5の成果報告ならびに研究に役立つ以外には使用いたしません。プライバシー保護には十分に留意いたします。

- ・同意します
- ・同意しません

**F1. ご所属の補習授業校の地域について教えてください。**

- 北米
- ヨーロッパ
- アジア
- オセアニア
- アフリカ

**F2. ご所属の補習授業校の規模について教えてください。**

- 30人未満
- 30人以上 50人未満
- 50人以上 100人未満
- 100人以上

**F3. ご所属の補習授業校の設立年について教えてください。**

- 1990年以前
- 1990年代
- 2000年代
- 2010年以降
- 不明

**F4. ご自分自身についてお伺いします。補習授業校での勤務年数を教えてください。**

- 1年未満
- 1年以上 3年未満
- 3年以上 5年未満
- 5年以上 10年未満
- 10年以上

**F5. 現在の担当学年（複数回答可）**

- 幼児部
- 小学校低学年（1・2年生）
- 小学校中学年（3・4年生）
- 小学校高学年（5・6年生）
- 中学校
- 高等学校
- 国際学級
- その他

**F6. 教員免許の有無**

- 担当している学校種の免許を持っている
- 担当している学校種以外の免許を持っている
- 持っていない

**F7. 日本国内での教育経験のあるものにチェックを入れてください（複数回答可）**

- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 特別支援学校
- 専門学校
- 大学
- 塾
- 語学学校
- その他

**F8. 日本国外での教育経験のあるものにチェックを入れてください（複数回答可）**

- 補習授業校
- 日本人学校
- 現地校
- インターナショナルスクール
- 塾
- 語学学校
- 大学
- 専門学校
- その他

## F9. これまで以下のような経験がありますか？（複数回答可）

- 勤務する補習授業校で他の教師の授業を見る
- 勤務する補習授業校で他の教師から教育に関するアドバイスを受ける
- 勤務する補習授業校以外で他の教師の授業を見る
- 勤務する補習授業校以外で他の教師から教育に関するアドバイスを受ける
- 勤務する補習授業校での業務として教育に関する研修に参加する
- 勤務する補習授業校での業務以外で、教育に関する研修に参加する
- その他

## 問1 | AG5 のどのような活動に参加しましたか？（一度でも参加されたものにチェックをしてください）（複数回答可）

- 学習活動計画作成
- 研究授業
- 初任者研修会
- 情報交換会
- 合同研究会
- Facebook の補習校サイトへの投稿
- Facebook の補習校サイトの閲覧
- AG5 ホームページへの投稿
- AG5 ホームページの閲覧
- メール受信のみ
- その他

## 問2 | AG5 のプロジェクトに関わろうとしたきっかけ・動機はなんですか？（複数選択可）

- 上司にすすめられたから
- 同僚にすすめられたから
- 最近の教育の動向を知りたかったから
- 教育の方法を学びたかったから
- 他校の様子を知りたかったから
- ネットワークをつくりたかったから
- その他

## 問3 | AG5 の活動は、あなたにとって役に立ちましたか？

「とても役に立った」から「役に立たなかった」の5段階評価

問 3-2 | (問 3 で 4・5 とお答えの方へ) AG5 のどのような活動が役に立ちましたか? (複数回答可)

学習活動計画作成  
研究授業  
初任者研修会  
情報交換会  
合同研究会  
その他

問 4 | AG5 への参加によって、ご自身にどのような知識や力が身に付きましたか? (複数回答可)

最近の教育の動向に関する知識  
教師の仕事についての知識  
授業を計画する力  
授業を実施する力  
学習成果を評価する力  
児童生徒に接する力  
上司や同僚とつながる力  
保護者と接する力  
他の補習授業校の教師と接する力  
特にない  
その他

問 5 | AG5 の活動を通して、指導している児童生徒が変化したと感じますか

「とてもそう思う」から「そう思わない」の 5 段階評価

問 5-2 | (問 5 で 4・5 とお答えの方へ) どのように変化しましたか? (複数回答可)

授業での活動に積極的に取り組むようになった  
活発に発言するようになった  
宿題をよくやるようになった  
わからないことを質問するようになった  
楽しく勉強できるようになった  
クラスの友達とよく交流するようになった  
教師と気軽に会話するようになった  
欠席が減った  
その他

問6 | AG5 でよかったと思う点はなんですか？（複数回答可）

他の教師の教育実践に触れることができた  
講師から教育に関する知識や技術を学ぶことができた  
教師たちとの情報交換やネットワークができた  
AG5 研究者からアドバイスを受けることができた  
特にない  
その他

問7 | AG5 の活動に参加する上で困難と感じたのはどのようなことですか？（複数回答可）

活動の曜日や時間が合わない  
多忙で時間や労力を割くことができない  
扱われているテーマが自分のニーズに合わない  
勤務以外で時間や労力を割きたくない・割く必要を感じない  
特に困難はない  
その他

問8 | AG5 の研修がオンラインで行われたことについてどう感じましたか？

「とても良かった」から「まったく良くなかった」の5段階評価

問8-2 | (問8で4・5と答えた方へ) それはどうしてですか？（複数回答可）

参加するための時間が節約できた  
参加するための費用が節約できた  
意見交換がしやすかった  
間近で授業や講義をみることができた  
繰り返し視聴することができた  
自分の都合のよい時間や場所で参加できた  
地理的条件に関わらずネットワークを広げることができた  
その他

問8-3 | (問8で1・2と答えた方へ) それはどうしてですか。（複数回答可）

オンライン環境が整えにくかった  
意見交換がしにくかった  
授業や講義の臨場感に欠けた  
親密な交流ができなかった  
その他



問9 | コロナ禍によって、あなたの勤務する補習授業校ではどのような影響がありましたか？（複数回答可）

- 休校になった
- 授業がオンラインになった
- 児童生徒数が減った
- 教師数が減った
- 派遣教師が赴任できなかった
- 教材・教具などの準備が遅れた
- 学校関係者（児童生徒、教師、保護者）に感染者が出た
- 特に影響はなかった
- その他

問10 | コロナ禍に対応するため、どのような教育上の工夫をしましたか？（複数回答可）

- オンライン双方向型の授業
- オンデマンド（録画の配信等）による授業
- 課題等の郵送
- MLを使った連絡
- オンラインによる個別相談対応
- メール等による個別相談対応
- 特にない
- その他

問11 | コロナ禍により、補習授業校ではどのような変化がありましたか？（複数回答可）

- 「とてもそう思う」から「そう思わない」の5段階評価
- ICTの導入が進んだ
- 授業準備の効率が上がった
- 児童生徒の欠席が減った
- 児童生徒へのフィードバックがしやすくなった
- 宿題の確認がしやすくなった
- 教師同士の連絡が取りやすくなった
- 家庭からの協力が得やすくなった

問11-2 | その他、コロナ禍による変化があれば、具体的にお書きください。

問12 | 今後もAG5をはじめとした補習校支援の活動に参加したいと思いますか？

- 「ぜひ参加したい」から「参加したくない」の5段階評価

問13 | AG5の今後の活動について、他の人に勧めたいと思いますか？

- 「ぜひ勧めたい」から「勧めたくない」の5段階評価

問 14 | AG5 の活動を通じて、補習授業校の教師としてのご自身の変化について、あてはまるものを選んでください。

「とてもそう思う」から「そう思わない」の5段階評価

1. 納得のいく教科指導ができるようになった
2. 指導の効果が児童生徒に見られるようになった
3. 適切な学習指導計画ができるようになった
4. 適切な教材作りができるようになった
5. 児童生徒からの手ごたえを感じられるようになった
6. 児童生徒の反応によって指導の仕方を工夫できるようになった
7. 思い通りの教室運営ができるようになった
8. 目標に応じて適切な教育方法を工夫できるようになった
9. 児童生徒と良好なコミュニケーションが取れるようになった
10. 授業の準備が楽しくなってきた
11. 教室での指導が楽しくなってきた
12. 無理をせず自分らしく授業に取り組めるようになった
13. 児童生徒の多様性を受け容れられるようになった
14. 補習授業校の仕事が好きになった
15. 職場の協力体制が整ってきた
16. いろいろな先生の指導方法を見ることにより、自分の指導力も向上した
17. 他の先生方との接触により自分の成長が促された
18. 自分なりの目標を立てて教科指導ができるようになった
19. 家庭での児童生徒の生活についてよく理解できるようになった
20. 保護者と良好なコミュニケーションが取れるようになった
21. 家庭学習への保護者の協力が得やすくなった
22. 他の先生方が積極的に取り組む姿を見て、自分も積極的になった
23. 管理職・先輩や同僚からの助言が受けやすくなった
24. 同僚や後輩への助言を行いやすくなった
25. 職場内での研修へ参加する機会が増えた
26. 職場外での研修へ参加する機会が増えた（AG5を含む）
27. どんな先生とも気軽に話せるようになった
28. 教育以外のことにも幅広く取り組めるようになった
29. 一般社会での出来事に興味関心や問題意識を持つようになった
30. 世界の動向に目が向くようになった

問 15 | AG5 の今後の活動について、改善すべき点、ご感想等、自由にご記入ください。  
ご協力ありがとうございました。

## AG5 補習校チーム 活動成果報告

---

2022 年 3 月

編著者 > 在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業  
AG5 運営指導委員会

発行者 > 公益財団法人海外子女教育振興財団  
理事長 綿引 宏行

連絡先 > 公益財団法人海外子女教育振興財団内  
AG5事務局  
〒105-0002  
東京都港区愛宕一丁目3番4号  
愛宕東洋ビル6階  
E-MAIL : ag5@joes.or.jp  
TEL : 03-4330-1351  
FAX : 03-4330-1355

印刷所 > 株式会社トック企画

---



公益財団法人  
海外子女教育振興財団  
Japan Overseas Educational Services

